令和７年度

教育委員会点検・評価報告書

令和８年９月

登別市教育委員会

目　　次

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について・・・・・・・・・・・・　2

Ⅱ 評価の手法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　2

　１ 点検・評価の対象
　２ 実施の流れ

Ⅲ 評価結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　3

　１ 教育委員会の活動状況の概要報告・・・・・・・・・・・・・・　3
　２ 重点施策の評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　6
　３ 重点施策の評定結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　５８

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等・・・・・・・・・　６１

Ⅴ 評価のまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　６３

Ⅵ 参考資料

　１　令和７年度教育行政執行方針（６４）
　２　教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ（６９）

Ⅰ 教育委員会の点検・評価について

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」（以下「地教行法」という。）の改定により、毎年教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することとされ、点検及び評価を行うに当たっては、教育に関する学識経験を有する方の知見の活用を図ることとされた。

登別市教育委員会では、効率的な教育行政の推進を図るとともに、市民への説明責任を果たしていくため、地教行法に基づき、令和７年度の教育委員会の活動状況の報告と基本方針及び重点項目の主な施策（15 項目）について点検・評価を行い、教育に関する学識経験を有する方々の意見を付して「教育委員会点検・評価報告書」としてまとめた。

本報告書を公表することにより、市民の皆様に教育に関する事務の管理及び評価の状況について説明するとともに、今後の施策・事業の展開に活用し、より一層効果的な教育行政の推進を図ることとする。

Ⅱ 評価の手法

１ 点検・評価の対象

登別市教育委員会の点検・評価は、教育委員会の活動状況の他、令和７年度の教育行政執行方針に位置づけられた施策・事業を点検・評価の対象として実施した。

２ 実施の流れ

⑴教育委員会の活動状況の概要報告

教育委員会の１年間の様々な活動について

⑵令和７年度の重点施策の管理及び執行状況の評価

・教育行政執行方針に位置づけられている重点施策を評価した。

点 検 内 容	当該年度の教育行政執行方針の重点内容
取 組 状 況	当該年度内に実施した取組の概要
評　　価	取組の実施状況に対する評価
今後の方向性	今後の取組を進める上での課題や対応の方向

⑶教育行政執行方針における重点施策の評定結果

・４段階（A～D）で、評価を実施した。

A：達成しているもの
B：おおむね達成しているもの
C：達成見込みであるが一部課題があるもの
D：達成に向け困難な課題があるもの

⑷点検・評価に関する学識経験者の意見等

・点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する行政外部の方からの意見、助言をいただいた（令和８年９月２９日）。

氏　　名	所　　属　　等
佐　藤　幸　夫　氏	日本工学院北海道専門学校　副校長
斉　藤　俊　之　氏	登別市退職校長会　副会長
大　野　　薫　氏	登別市文化協会　副会長

Ⅲ 評価結果

1 教育委員会の活動状況の概要報告

(1) 教育委員会の活動状況

教育委員会は、毎月１回、計 12 回開催した。

会議では、議案の提案理由や説明が行われた後、各委員からの質問・意見などの審議を経て、いずれも可決、了承された。また、事務局からの情報提供や各種課題、事業の進捗状況、その他事項の報告について、意見交換を行った。

(2) 令和７年度　登別市教育委員会の概要

第１回 会議	4/24 16:30	報告第１号 教育委員会事務局職員の休職発令に係る臨時代理について 議案第１号 登別市立登別中学校の廃止について 議案第２号 登別市立図書館協議会委員の任命について 情報提供 （１）令和７年度学校施設の工事計画について （２）令和７年４月１０日時点児童生徒数・学級数調書について （３）令和７年度登別市立学校主要行事等予定一覧について
第２回 会議	5/29 16:30	報告第２号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第３号 教育委員会事務局職員の復職発令に係る臨時代理について 議案第３号 登別市社会教育委員の委嘱について 議案第４号 登別市スポーツ推進委員の委嘱について 議案第５号 登別市指定文化財の指定について 議案第６号 登別市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について 情報提供 （１）スマートフォン等についてのアンケート調査分析について （２）令和６年度登別市いじめ不登校等の状況について （３）登別市青少年会館における事故について （４）令和６年度巡回パトロール活動及び街頭指導等の状況について （５）令和６年度不審者等出没状況について
第３回 会議	6/26 16:30	報告第４号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第５号 令和７年第２回登別市議会定例会一般質問について 報告第６号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第７号 令和６年度教育行政事務の管理執行状況の点検・評価に係る学識経験者の活用及び選任について 情報提供 （１）「第７次登別市社会教育中期計画」の策定について （２）市立図書館の登別中央ショッピングセンターアーニス内への移転に係る図館協議会への諮問について
第４回 会議	7/31 16:30	情報提供 （１）登別市立学校職員の在宅勤務について （２）「Let’sEnjoy!夏休み英語教室」について （３）令和６年度生涯学習事業実績と点検評価について （４）市立図書館の登別中央ショッピングセンターアーニス内への移転に係る図書館協議会からの答申について
第５回 会議	8/28 16:30	情報提供 （１）令和７年度１学期の登別市立学校におけるいじめ・不登校等の状況について

		（２）令和７年度全国学力・学習状況調査に係る結果の概要と指導のポイントについて （３）令和７年度舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）の開催について （４）登別市立図書館整備検討委員会における検討結果について
第６回 会議	9/25 16:30	報告第７号 登別市教育委員会委員の任命について 報告第８号 令和７年第３回登別市議会定例会一般質問について 報告第９号 教育委員会事務局職員の人事異動に係る臨時代理について 情報提供 （１）（仮称）室蘭市・登別市新学校給食センター整備基本計画の策定について
第７回 会議 （移動教育委員会）	10/30 14:30	報告第10号 登別市教育委員会教育長の任命について 議案第８号 令和６年度教育行政執行事務の管理執行状況の点検・評価報告の作成について 議案第９号 登別市文化伝承館の廃止について 情報提供 （１）鬼っ子フォーラムの開催について （２）登別市図書館の今後のあり方に関するアンケートの実施結果について
第８回 会議	11/27 16:30	報告第１１号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 議案第１０号 登別市立学校学校医等表彰について 情報提供 （１）令和８年登別市二十歳のつどいについて （２）学校給食のあり方に関するアンケートの実施結果について
第９回 会議	12/18 16:30	報告第１２号 令和７年第４回登別市議会定例会一般質問について 議案第１１号 本市と室蘭市による学校給食センター広域設置のあり方の検討結果及び今後の方針について 議案第１２号 登別市立図書館の方向性にかかる方針について 情報提供 （１）令和８年度教育行政執行方針（案）概要について （２）登別市教育26 大綱について
第10回 会議	1/22 16:00	報告第１３号 令和７年第４回登別市議会臨時会提出議案に係る臨時代理について 報告第１４号 教育委員会事務局職員の人事異動に係る臨時代理について 報告第１５号 教育委員会事務局職員の人事異動に係る臨時代理について 報告第１６号 令和８年第１回登別市議会臨時会提出議案に係る臨時代理について 議案第１３号 令和８年度登別市教育行政執行方針について 議案第１４号 登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針の改訂について 議案第１５号 学校給食費の改定について 情報提供 （１）第５回ピンクシャツ大作戦in登別について （２）第７次登別市社会教育中期計画（案）に係る意見公募（パブリックコメント）の実施について
第11回 会議	2/26 16:30	報告第１７号 登別市議会定例会提出議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第１８号 教育委員会職員の懲戒処分に係る臨時代理について 議案第１６号 登別市郷土資料館条例施行規則の一部改正について 議案第１７号 登別市教育委員会事務局組織規則の一部改正について 情報提供 （１）令和８年度教育行政執行方針について （２）市内小中学校の令和７年度卒業式及び令和８年度入学式の日程について （３）登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針

		～将来における小中学校のグランドデザイン～見直しに係る説明会について （４）実用英語技能検定に係る小学生の受検について （５）令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査の結果と分析について （６）北海道登別明日中等教育学校入学者選考の結果について
第12回 会議	3/26 16:30	報告第１９号 令和８年第１回登別市議会定例会一般質問について 報告第２０号 教職員人事の内申に係る臨時代理について 報告第２１号 登別市議会定例会提出追加議案に関する意見に係る臨時代理について 報告第２２号 教育委員会事務局職員の人事異動に係る臨時代理について 議案第１８号 第７次登別市社会教育中期計画の策定について 議案第１９号 登別市学校教育情報化推進計画（第２期）の策定について 議案第２０号 登別市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画の策定について 議案第２１号 登別市学校管理規則の一部改正について 議案第２２号 登別市学校運営協議会規則の制定について 情報提供 （１）令和７年度コミュニティスクール（学校運営協議会）の実施状況について （２）登別市郷土資料館のリニューアル内覧会について （３）登別市教育26大綱（案）に係る意見公募（パブリックコメント）の実施結果について （４）令和７年度登別市立中学校に係る進路状況について

(3) 調査活動の実施状況

教育委員会委員による小中学校の教育活動の視察や研修活動の概要

①公開研究会等の視察

・鷲別中学校公開研究会　10/28

・北海道登別青嶺高等学校公開授業　6/16、10/9

②教育ふれあいDAY

・幌別中学校　10/27

・登別小学校、若草小学校、登別中学校、緑陽中学校　10/28

・鷲別小学校、青葉小学校、鷲別中学校　10/29

・幌別西小学校、西陵中学校　10/30

・幌別小学校、富岸小学校　10/31

③各種会議・研修会の参加

・北海道都市教育長会春季定期総会（三笠市）5/22、秋季定期総会（江別市）11/20

・全国都市教育長協議会（埼玉県川越市）　5/15～16

・胆振管内教育長会議　4/9、7/16、12/23（7/16 オンライン）

・胆振管内教育委員会委員研修会　1/20

・公立高等学校配置計画地域別検討協議会 4/21、7/28（オンライン）

・北海道都市教育委員会連絡協議会定期総会（稚内市）8/21

・北海道公立学校情報機器整備共同調達会議 2/18（オンライン）

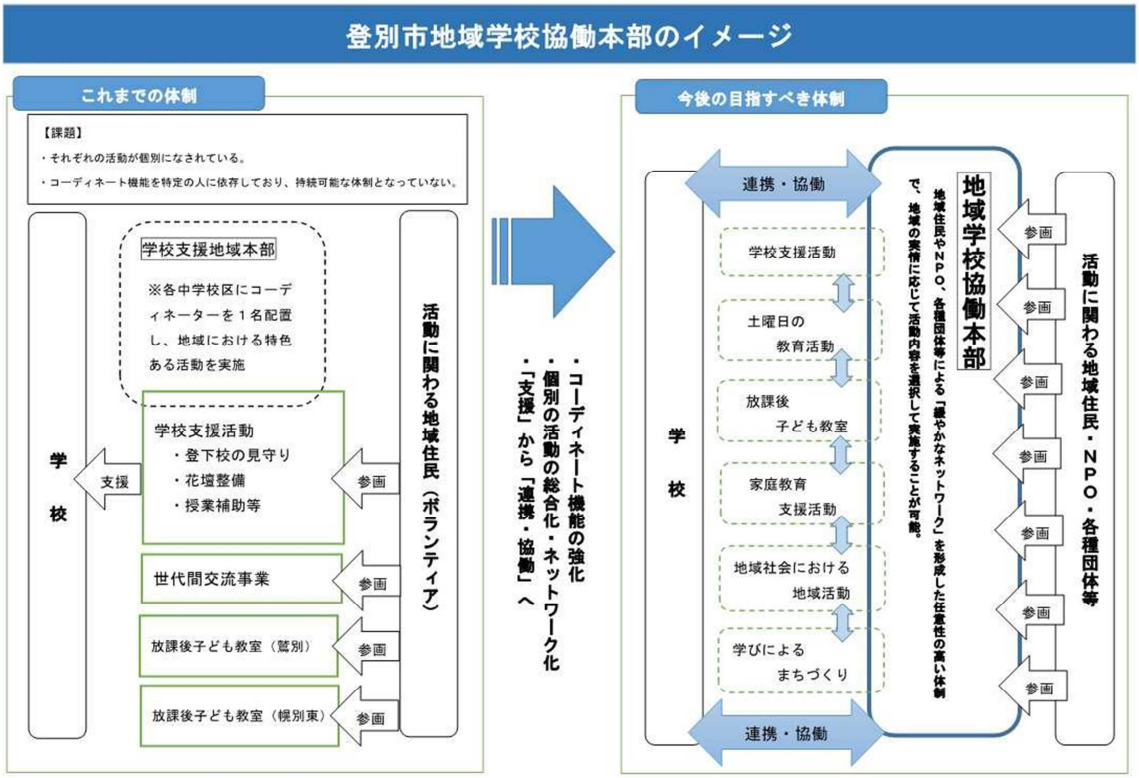
④その他

市内小中学校の入学式及び卒業証書授与式への出席、運動会や体育祭等を参観

２ 重点施策の評価

項 目	１　地域とともにある学校づくり
点 検 内 容	本市においては、学校運営協議会と地域学校協働本部の活動を軸として、学校・家庭・地域の連携・協働により子どもたちが自ら未来を切り拓くための「生きる力」を身に付けることができるよう、成長を支えていく。 地域と歩む持続可能な教育を実現させるために、各小中学校独自の発想や工夫を生かし、地学協働の取組を継続していく。 その中で「ふるさと登別」の豊かな自然や資源にふれる体験的な活動を通して、地域への愛着や誇りを醸成し、学びの中で実感した「ふるさと登別」の魅力を参観日や「教育ふれあいウィーク」など、あらゆる機会で家庭や地域に積極的に発信していく。 また、学校コーディネーターの選出に向けた取組を引き続き継続する。

取組状況



○学校コーディネーターの配置

・地域の実情に応じて段階的に整備し、令和７年度末で 12 校中 11 校が配置済みとなっている。

○学校運営協議会の話し合いの内容

	月	日	主な議題（学校経営方針以外）	次年度の方向性
幌別中	4	25	本年度の教育活動について　生徒の様子	合同運営委員会を実施し小中連携体制の充実を図る
	12	19	２学期の教育活動 前期学校評価分析 第２回いじめアンケート結果　登別中学校との統合について	
	2	18	【小中合同】３学期の教育活動　生徒の様子　後期学校評価分析	

幌別小	5	21	学力向上・基本的生活習慣・豊かな心の育成に関わる取組 働き方改革	地域・家庭と協働し学力・体力向上のための熟議を進める
	10	31	全国学力・学習状況調査結果　前期学校評価結果　いじめの実態	
	2	26	【小中合同】３学期の教育活動　生徒の様子　後期学校評価分析	
西陵中	5	22	【小中合同】コミスクの目標、役割分担の確認　生徒の様子	学校、家庭、地域の役割を相互確認し行動連携できる取組の深化
	12	11	【小中合同】学校評価・全国学調・いじめ調査結果　小中一貫教育	
	3	5	【小中合同】やさしく、かしこく、力強い子どもの育成に向けて大事にしたいことについて　学校評価結果	
幌別西小	5	22	【小中合同】コミスクの目標、役割分担の確認　児童の様子	小中連携事業への協力(CS との一体化を目指して)
	12	11	【小中合同】学校評価・全国学調・いじめ調査結果　小中一貫教育	
	3	5	【小中合同】やさしく、かしこく、力強い子どもの育成に向けて大事にしたいことについて　学校評価結果	
鷲別中	7	2	第１回地域いじめ防止対策委員会　１学期の様子 校内設備について　昨年からの経過報告　意見交換	９年間の連続性を支える中学校区学校運営協議会の推進
	11	26	【小中合同】鷲別中学校区の防災　保護者・地域との連携 学校内外の環境　第２回地域いじめ防止対策委員会	
	2	26	学校評価　小中一貫教育の取組 第３回地域いじめ防止対策委員会	
鷲別小	7	22	委員確認　校内体制　保護者アンケート結果　いじめ・不登校の現状 学力・体力向上に向けた取組　地域とともにある教育活動	地域と家庭、学校が一体となった教育活動を進める
	11	26	【小中合同】鷲別中学校区の防災　保護者・地域との連携 学校内外の環境　第２回地域いじめ防止対策委員会	
	1	26	学校運営の進捗状況　学校評価結果　学校統合に向けた動き	
	2	27	学校運営の進捗状況　いじめ・不登校の状況	
若草小	4	18	学校運営協議会の組織体制と活動内容について	町内会とＰＴＡがさらに連携を深め子どもたちの健全な育成について一層の充実を図る
	7	18	地域いじめ対策委員会　校内ＬＥＤ化工事について	
	9	5	２学期の経営の重点　　スポットクーラー視察	
	11	26	【小中合同】鷲別中学校区の防災　保護者・地域との連携 学校内外の環境　第２回地域いじめ防止対策委員会	
	3	6	学校運営協議会、学校経営の振り返り　鬼っ子算数教室について	
登別中	9	2	グランドデザイン　ここまで・これからの学校生活について	幼保小中連携、望ましい生活・学習習慣の確立
	12	17	【小中合同】健やかな身体づくりに向けた課題とアプローチ	
	2	25	学校評価結果について　今後の教育活動について	
登別小	6	26	学力向上プラン　働き方改革　いじめ防止基本方針　教育活動状況	幼保小中連携と望ましい生活・学習習慣確立のための家庭と地域と一体となった取組推
	9	24	前期学校評価　全国学力･学習状況調査結果　教育活動状況	
	10	28	授業参観を踏まえた子どもたちの様子、学習活動の様子	
	12	17	【小中合同】健やかな身体づくりに向けた課題とアプローチ	
	2	26	後期学校評価　全国体力･運動能力･運動習慣等調査 いじめ調査結果　教育活動状況　鬼っ子算数教室	
緑陽中	6	5	委員の確認・活動計画　いじめ・不登校の状況　今後の教育活動	望ましい生活・学習習慣の確立に向けた取組推進
	10	31	【小中合同】授業参観を踏まえ体験交流　緑陽中学校区児童生徒の学力・いじめ・不登校状況　スマホ・メディアコントロール　防災	
	2	26	今年度の教育活動　生徒の様子　学校評価書について	

富岸小	5	21	教育活動の変更について　学校評価　ＰＴＡ活動について	授業参観や学校評価結果を基に今後も学校運営に対する意見をいただく
	9	24	前期学校評価結果　学校運営状況　児童の様子について	
	10	31	【小中合同】授業参観を踏まえ体験交流　緑陽中学校区児童生徒の学力・いじめ・不登校状況　スマホ・メディアコントロール　防災	
	2	17	令和８年度目指す学校像について　学校評価結果	
青葉小	5	16	年間行事予定　いじめ防止基本方針について	中学校区一体となった望ましい生活・学習習慣の確立に向けた取組推進
	8	28	児童の様子　全国学調結果　いじめの状況や対応について	
	10	31	【小中合同】授業参観を踏まえ体験交流　緑陽中学校区児童生徒の学力・いじめ・不登校状況　スマホ・メディアコントロール　防災	
	2	26	学校評価　いじめの状況や対応　体力・運動能力調査結果	

○ふれあいウィーク(10/27～10/31 の１週間)

11/1「北海道教育の日」に合わせて、平成 16 年度から「ふれあいデー」として市民に市内の小中学校を公開してきたが、その取組をさらに発展させ、平成 23 年からは「教育ふれあいウィーク」として、その時期に学校公開のほか講演会や懇談会など各種事業の取組を進めている。学校や地域、保護者が、登別の教育の在り方について考えを深め合う期間として位置付けている。

・学校公開（保護者や地域の方、市民への公開）
・中学校吹奏楽部定期演奏会　10/19 幌別中　10/26 緑陽中　11/2 登別中
・特別支援学級作品展　10/18～10/24　市民会館１Ｆ廊下

○鬼っ子フォーラム(11/18)

教職員や保護者、地域住民が登別の教育の在り方を考える「教育フォーラム(令和元年度まで隔年実施)」を開催していたが、令和３年度から市内小中学校･高等学校･中等教育学校の代表が一堂に会し、いのちの重さや人としての生き方、人との関わりについて考えを深める「鬼っ子フォーラム」を開催することとした。

評 価	コミュニティ・スクールを導入し１２年が経過した。年に３回程度、学校運営協議会を開催するとともに、すべての中学校区で、小中合同あるいは幼保と合同での開催を年１回以上実施できた。 地域学校協働本部事業は、コーディネーターを中心に、地域住民などの協力を得ながら各種体験活動を実施することができた。 各学校に一人配置する予定である学校コーディネーターの選出は、ＰＴＡ役員経験者を中心に声掛けを行ったものの、令和６年度までの選出を完了することができなかった。様々な機会を捉えて、地域学校協働活動の目的やコーディネーター配置の趣旨を説明する必要がある。
今後の方向性	本市においては、これまでも学校運営協議会と地域学校協働本部を核とし、学校・家庭・地域の役割分担を明確にして連携を深め、各小中学校独自の発想や工夫を生かして地学協働の取組を継続し、子どもたちの成長を支えてきた。 登別市の豊かな自然と歴史や文化の中で、子どもたちが地域に誇りや愛着を持ち、持続可能な地域づくりに向けた人材へと育つよう、地域資源を活用した小中９年間の系統的かつ連続性のある体験的な活動を重視した学習「ふるさとキャリア教育」の内容をブラッシュアップさせるとともに、「教育ふれあいウィーク」などを活用して、子どもたちが学びの成果やふるさとの魅力を地域へ発信する機会を創出していく。 また、学校コーディネーターの選出に向けた取組を引き続き継続する。

項 目	2　確かな学力の定着
点 検 内 容	確かな学力の定着については、児童生徒一人一人が主体的に自己調整しながら学びを進められるよう、各学校において指導方法や指導体制を工夫し授業改善を推進していく。 算数・数学については、デジタル教科書やAIドリル等を効果的に活用し、個々に応じた学習レベルの問題に取り組んだり、反復演習をしたりするなど一人一人の学習状況を把握するとともに、子どもが自ら学ぶ学習を実施する。 英語教育については、デジタル教科書や外国語指導助手ALTを活用することで、普段の授業に加えて長期休業中の学校への派遣やイベントを開催する等により児童生徒が日常より英語に慣れ親しむことができる機会を設け、より英語への興味・関心を高め、観光に訪れる外国人に対して積極的にコミュニケーションを図る意識や英語力を身に付けることを目指す。 望ましい学習習慣の確立については、本市の児童生徒の意識調査から「授業はよくわかる」と８割以上が回答する一方で、家庭学習の時間が不足している現状が見受けられるため、日頃からタブレット端末を持ち帰り、自律的な家庭学習の定着に向けた取組を継続する。

取組状況

○全国学力･学習状況調査（対象：小学６年生・中学３年生）

【調査の概要】

本調査は、義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力･学習状況を把握し、教育施策の成果と課題の検証により改善を図るとともに、学校での児童生徒への学習指導の充実や改善等に役立てること、加えて教育に関する継続的な検証改善サイクルの確立を目的として、全国の小学６年生と中学３年生を対象に実施されてきた。

令和７年度は、小学校・中学校とも国語と算数数学、理科の３教科に関する調査と、生活習慣や学習習慣等について質問紙調査が行われ、登別市では、小学生 280 名、中学生 243 名が参加した。

【教科に関する調査】

・小学校では、国語科、算数科、理科の全教科で全国の平均正答率を下回っており、特に算数科では全国との差が大きい。
・中学校では、国語科と数学科が全国の平均正答率と同等であり、理科が上回っている。
・以下、教科ごとの概要

［国語］

・小学校では、評価の観点「知識・技能」は全国平均をやや下回り、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」、「読むこと」は全国平均を下回り、「書くこと」は全国平均と同等であった。
・中学校では、評価の観点「知識・技能」は全国平均を上回り、「思考力、判断力、表現力等」の「話すこと・聞くこと」「読むこと」「書くこと」の全ての領域について全国平均と同等であった。

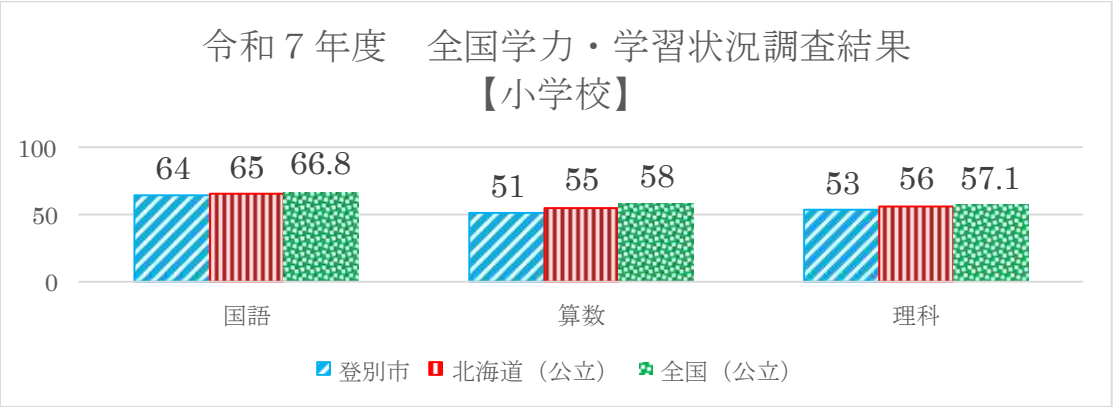
［算数・数学］

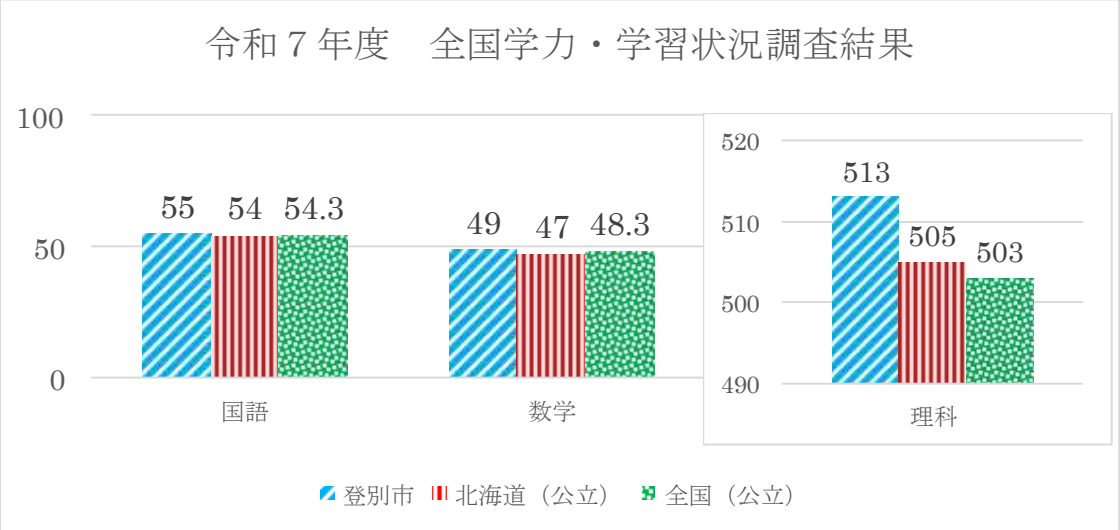
・小学校では、評価の観点「知識・技能」、「思考力、判断力、表現力」ともに全国平均を下回っている。特に、「数と計算」の領域で全国平均を大きく下回っている。
・中学校では、評価の観点「知識・技能」は全国平均をやや上回っている。「思考力、判断力、表現力」では全国平均を下回り、「数と式」の領域では全国平均を上回り、「図形」「関数」の領域では全国平均と同等、「データの活用」の領域では全国平均を下回っている。

［理科］

・小学校では、評価の観点「知識・技能」及び「思考力、判断力、表現力」では全国平均を下回っている。「エネルギー」「生命」の領域では全国平均をやや下回っており、「粒子」「地球」の領域では全国平均を下回っている。
・中学校では、全国の平均 IRT スコアが 503 に対し、本市の平均 IRT スコアが 513 と、全国平均を上

回っている。





○各学校の取組に対する支援

①教育課程課題検討委員会の開催

全国学力・学習状況調査の自己採点結果から子どもの状況や課題を校種間で共有するとともに、「学習内容の定着」に向けた取組を推進し、学力向上に結び付けることを目的に実施

・第１回：5/20

・第２回：12/16

参加者：校長会研修担当、全小中学校教頭、教務主任、学力向上・研修担当等の教諭

②「令和７年度全国学力・学習状況調査の結果の概要と指導のポイントについて」として本市の全国学力・学習状況調査結果を分析し、結果から考えられる課題や授業改善のポイントをまとめ、市内各学校に周知した。（8/19）

③学習支援専門員の配置と学校支援

・配置　教育指導室に学習指導員２名を配置。

・取組

４月　・全国学力・学習状況調査の実施に向けた「心構え」と「鬼っ子チャレンジテストはじまり号・復習問題（算数）」を作成し、各小学校への配布

・鬼っ子算数教室用教材「鬼っ子チャレンジテスト」（４～６年生）の改善

・「鬼っ子チャレンジテスト」動画解説資料の作成

・「鬼っ子算数教室」実施に向けた準備（各校の年間実施予定調整及び年間指導計画の策定）

・「鬼っ子チャレンジテスト（１学期分)」作成と教育委員会ウェブサイトへの掲載

５～７月　・「鬼っ子算数教室」の実施（７小学校）
・鬼っ子算数教室用教材「鬼っ子チャレンジテスト」（４～６年生）の改善
・「鬼っ子チャレンジテスト」動画解説資料の作成
・「鬼っ子チャレンジテスト（２学期分)」作成と教育委員会ウェブサイトへの掲載

８～12 月　・「鬼っ子算数教室」の実施（７小学校）
・全国学力・学習状況調査結果（算数）の分析及びチャレンジ問題への反映及び
・令和８年度用「鬼っ子チャレンジテスト」の問題・解答作成
・全国学力・学習状況調査（算数）の調査結果をもとに、全設問の動画解説資料を作成
・「鬼っ子チャレンジテスト（３学期分)」作成と教育委員会ウェブサイトへの掲載

１～３月　・「鬼っ子算数教室」の実施（７小学校）
・令和７年度「鬼っ子算数教室」成果と課題作成、報告
・登別市児童の課題を踏まえた、次年度に向けた学習教材の改善等
・令和８年度「全国学力・学習状況調査」実施に向けた「鬼っ子チャレンジテストはじまり号」の作成

○鬼っ子算数教室実施状況

富岸小学校　予定 10 回　→　実施 10 回　　若草小学校　予定 10 回　→　実施　９回
幌別小学校　予定 12 回　→　実施　９回　　幌別西小学校　予定 12 回　→　実施 12 回
鷲別小学校　予定 10 回　→　実施 10 回　　青葉小学校　予定 10 回　→　実施　９回
登別小学校　予定 10 回　→　実施 10 回

◆　登録指導者数　62 名
◆　参加指導者数（延べ人数）　408 名
◆　登録児童数　第４学年　43 名　第５学年　54 名　第６学年　48 名
◆　参加児童数（延べ人数）　第４学年 389 名　第５学年 452 名　第６学年 410 名

（１）登録児童生徒数・経年比較

学校名	若草小			登別小			富岸小			幌別小		鷲別小			青葉小		幌別西小		
学年	4	5	6	4	5	6	4	5	6	5	6	4	5	6	5	6	4	5	6
H26	-	23	16	-	16	23	－	24	21	22	11	－	-	-	-	-	-	-	-
H27	-	19	17	-	25	18	－	22	38	20	25	－	-	-	-	-	14	9	10
H28	-	22	11	-	11	20	－	16	23	26	15	－	26	35	24	9	13	11	5
H29	-	11	8	-	23	14	－	43	11	16	9	－	27	28	27	30	14	6	8
H30	16	10	4	-	18	13	－	32	19	9	11	－	16	16	23	29	12	13	6
R元	15	14	6	-	25	13	－	40	61	17	8	－	17	12	22	26	14	10	7
R２	7	5	13	-	-	-	－	19	24	7	10	－	9	13	17	14	6	10	4
R３	11	5	3	-	8	12	－	15	18	16	4	－	10	8	19	19	16	5	7
R４	11	9	4	-	5	16	－	12	12	9	9	－	5	7	6	11	6	12	3
R５	12	8	7	-	6	7	－	10	10	15	8	14	7	4	7	6	4	6	12
R６	16	11	5	6	8	6	－	10	8	10	11	6	6	4	8	10	2	5	4
R７	12	11	5	11	4	8	7	6	8	16	7	7	6	6	9	8	6	2	6

（２）実施の形態

・実施時間は４５分間であり、学習内容は、登別市教育委員会ホームページに掲載している「鬼っ子

チャレンジテスト」を活用（１回につきチャレンジテスト５～６枚程度）して既習事項の復習を行い、学習内容の定着を図っている。
・中止となった場合は、予定した学習問題を学校から対象児童へ渡し、家庭学習等で取り組むこととした。若干名ではあるが、後日学習指導員に提出した児童が見られた。
・実施時は、学校管理職及びコーディネーターの協力の下、会場の準備や後片付け等を行った。
・実施時間中は、各校とも基本的に職員会議や研修等を行っているが、学級担任や管理職が学習の様子を参観することもある。
・令和７年度より、児童一人一人にクロームブックを持参させ、Classroom上に掲載している「鬼っ子チャレンジテスト解説資料」を参照しながらの学習を可とした。一定数の児童による活用が見られる。

（３）成果と課題

【成　果】

・児童一人一人が、自分のペースで学習問題に取り組む中で、忘れたりわからなかったりした場合は挙手して指導者のアドバイスを受けながら学習に取り組んでいる。そのことにより、きめ細かな指導が可能となり、既習事項の定着に資することができた。
・学習問題１枚を解き終わったら挙手して指導者の指導（丸付けを含む）を受け、その後次の学習問題に取り組むこととしている。そのことにより、学習問題１枚１枚を解き終えた達成感を味わうことができた。
・算数教室における指導形態は、上記のとおりきめ細かな個別指導が主であり、そのことにより、個々の児童の自己解決力を育むことができた。
・時折算数教室を続けている成果を児童に尋ねたり、算数教室最終日に児童から送られた感謝の手紙を読んだりすると、「算数の苦手な単元がわかるようになった」「算数の授業がわかりやすくなった」等の声を聞くことができた。
・算数教室で活用している「鬼っ子チャレンジテスト」は、毎年見直しを図り、児童が算数的な思考判断、表現を駆使する問題を作成している。算数教室での個別指導の際には、これらの問題を解決するための考え方を述べさせるなど、児童に思考過程を意識させるようにしている。
・児童が校区に住む方々とふれあう中で、算数科に関することをはじめとして、学習以外の話題でも対話している様子が見られ、微笑ましい光景であった。また、校区に住む方々から指導を受ける体験は、児童にとって地域とのかかわりを実感する機会と考えることができた。
・算数教室は指導ボランティアの方々にとって、現在の学校教育の一端を知る機会となったことと考えられる。児童とのふれ合いを楽しみにしている方々が多く見られた。

【課　題】

・より多くの児童が鬼っ子算数教室へ参加するよう各校に依頼してきたが、他の習い事との重複があったり、担任によって児童への声かけに差異があったり等で、期待するほどの参加数があったとはいえない。同一校においても、学年によって参加児童数に大きなばらつきが見られた。
・地域ボランティアの方々の高齢化や学校による協力人数の差異が、継続した課題であったが、今年度当初は、多くの地域ボランティアの方々に参加登録していただいた。しかし、算数教室の回を重ねるごとに、参加人数が減少する傾向が多くの学校で見られた。高学年の算数科指導に難しさを感じる方々が多かったのではないかと考えられる。

○各学校の朝読書と図書ボランティアなどの活動状況

学校名	朝読書	図書ボランティア	その他
幌別小	毎朝10分	貸出返却･ＡＬＴ読み聞かせ 図書館掲示・装飾	図書委員の読み聞かせ、 おはなしぽけっとによる読み聞かせ
幌西小	月水金10分	読み聞かせ･環境整備･貸出返却	図書だよりの発行、読書通帳、
鷲別小	週１、15分 読書週間(月１) 月～金 10～15分	環境整備･新刊紹介･図書便り発行 学級文庫の設置、児童作品の展示	図書委員によるおすすめの本コンクール、 読書啓発活動、 お話りぼんによる読み聞かせ
登別小	火木15分	読み聞かせ(状況に応じて年複数回実施)	図書館環境整備
富岸小	火曜10分	月2回程度、朝の読み聞かせ(6月から実施)	図書館環境整備
若草小	火・木10分	読み聞かせ、環境整備、新刊紹介 ＰＴＡ図書スタッフによる読み聞かせ	図書委員読み聞かせ
青葉小	木曜10分	飾付･環境整備 朝の読み聞かせ(毎月１～２回程度)	図書委員による読み聞かせ
幌別中	毎朝10分	週2回程度、貸出返却･環境整備 新刊紹介･テーマコーナー･学級文庫入れ替え	委員会補助
鷲別中	実施せず	新刊紹介･テーマコーナー・環境整備 ・図書館企画（週２～３回 図書館司書対応） 3/6 ３年生図書パネルシアター	図書館環境整備、新刊の紹介 図書委員会による学級文庫の入替 図書ボランティアの読み聞かせ
登別中	毎朝10分	活動なし	図書委員会による運営 図書委員会による読書推進活動 図書室の装飾 図書館だよりの発行
西陵中	実施せず	活動なし	学級文庫入れ替え 文化専門委員による昼の放送を使って読み聞かせ（計２回）（学校司書対応） 図書館内イベント開催 ・（６月）本を借りてガチャ回そう ・（８・９月）棒くじイベント ・(10月）ハロウィンスタンプラリー ・(11月）本の福袋 ・(12月）クリスマスプチプレゼント ・（２月）恋愛小説総選挙
緑陽中	実施せず	活動なし	委員会活動 ・学級文庫 ・おすすめ本コーナー設置 ・おすすめ本ポスター（６月・12月） 図書室イベント

			６月：図書室なるほど〇×クイズ ９月：棒くじイベント 10月：棒くじイベント（ハロウィンバージョン） 11月：本の福袋 12月：クリスマスプレゼント配布（ガチャガチャ抽選）

〇学校図書担当者・学校図書ボランティア連絡会議

1　日　時　6/27

2　内　容　各校での読書活動や取組についてのグループ協議、学校閉校に伴う図書の移設の状況と今後の課題

〇登別市学校司書連絡会議～年６回実施（①6/30　②8/25　③9/24　④11/6　⑤1/6　⑥3/25）

1 ねらい　市内小学校に配置されている学校司書の連携を図り、互いの知識を共有することにより、さらに有効な学校図書館整備の充実を図る。

2 内　容　活動内容の交流・図書館だよりなどの意見交換・本の整理や選書に関する情報交換・読み聞かせに関する情報交換　その他

〇長期休業中の学校図書館の開放

読書活動推進の一環で、休業中の日時を設定し児童生徒に対し学校司書による貸出業務等を行った。

＜利用状況＞夏休み　132 名　貸出冊数　94 冊

冬休み　7 名　貸出冊数　4 冊

〇小学校への団体貸出

26 学級 535 冊（「小学校の特別支援学級への貸出」及び「調べ学習等学級貸出」の合計）

〇小・中学生の読書感想文コンクール

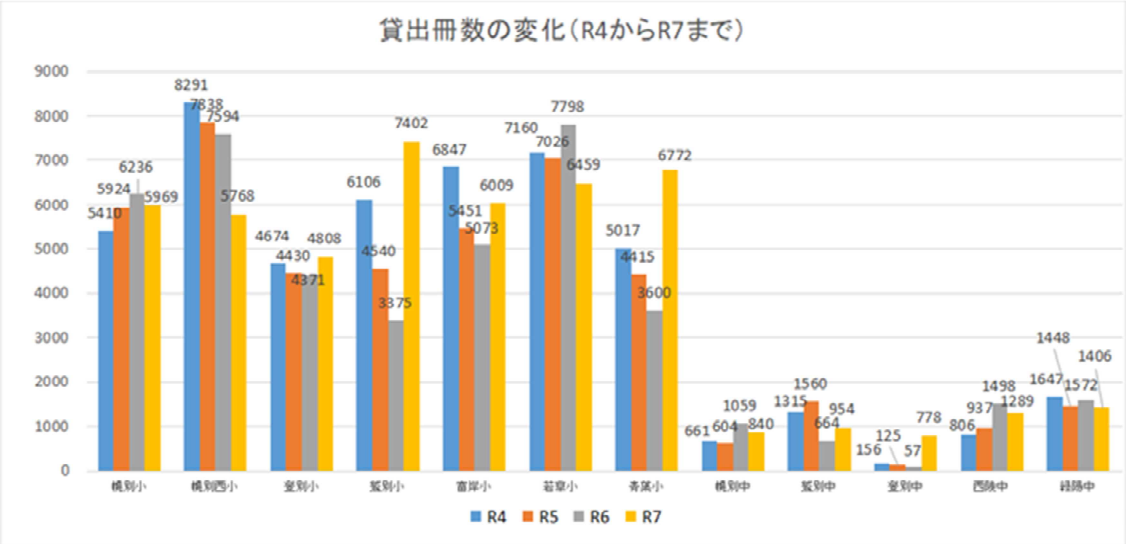
読書感想文コンクールの応募点数を令和５年度から小学校も中学校に合わせ、１学級あたり３点以内とした。応募件数　155 作品（入選　29 作品）。

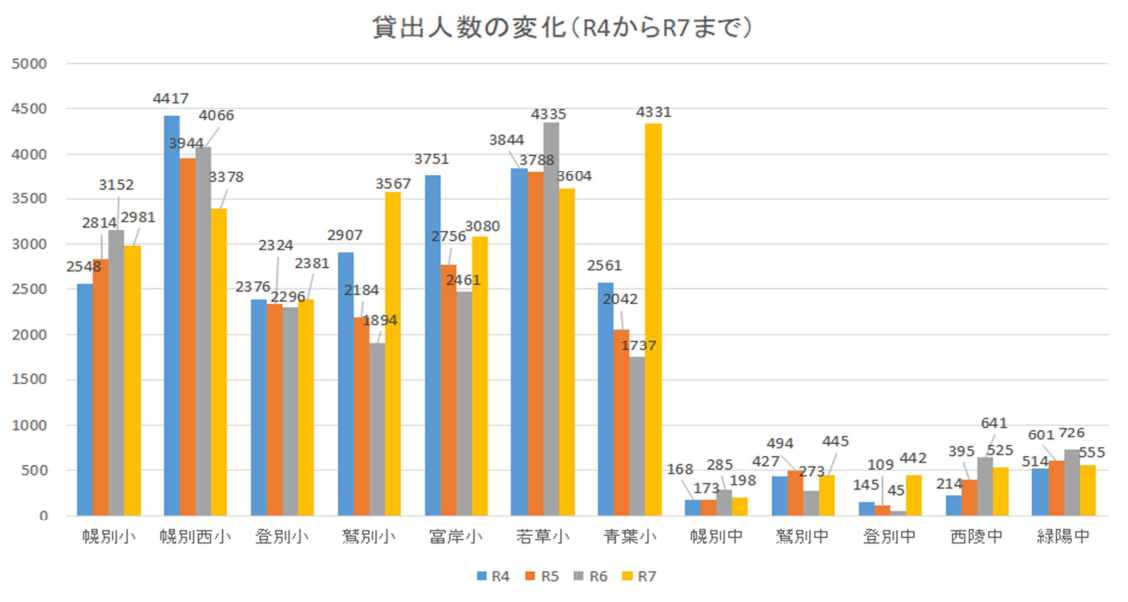
〇学校図書館担当職員（学校司書）の配置

図書館司書等の有資格者を段階的に２校に１人の割合で配置した。

・H25～H26 年度　２人を４校に配置（幌別西小、青葉小、鷲別小、若草小）
・H27 年度以降　４人を８校に配置（上記に加え、登別小、幌別東小、幌別小、富岸小）
・R3～R4 年度　モデル事業として中学校に司書を１名配置（緑陽中・西陵中兼務）
・R5～R6 年度　市内で司書を６名配置。（１人で２校担当。登別中以外配置）
・R7 年度　市内で司書を６名配置。（１人で２校担当。）

○貸出冊数と貸出人数の変化





英語教育の取組状況

・緑陽中学校が「生徒の英語力向上実践事業」の指定を受け、授業力向上に努めた。

・中学校においても、円滑な学校間接続の観点から、中学校の外国語科教員の系統的指導に対する意識化が図られるとともに、従前より本市で取り組む小中一貫教育の機能を最大限活用し、専門性を発揮した授業が行われ、義務教育９年間を見通した英語教育が一体的に展開された。特に英語専科を活用した外国語活動や外国語が効果的に行われている。

・小学校１・２年では、年間 10 時間程度外国語活動として実施する予定になっている。

＜参考：ＡＬＴの小中学校年間派遣実績＞

・小学校への年間派遣回数～462 回（昨年度 478 回）

・中学校への年間派遣回数～245回（昨年度 249回）

・長期休業期間中にALTを派遣した学校数　　10校（昨年度６校）

評 価	全国学力・学習状況調査において、小学校の平均正答率は、国語・算数ともに全国平均を下回った。中学校は、国語・数学とも全国平均と同等だった。 質問紙調査結果から、「授業でタブレット端末を毎日活用する」に対し、肯定的な回答の児童生徒の割合が全国平均を大きく上回り、学校での活用が進んでいることが伺える。 また、「話合いで考えを深める・新たに気付く」、「学習内容を振り返り、次へつなげる」に対し、肯定的な回答の児童の割合は全国平均を上回り、生徒の割合は全国平均と同等のため、意欲を持ち、自身で計画を立て、見通しを持ちながら学習していることが伺える。 算数・数学の学習支援について、学習アプリの活用が進んできた。中学校数学については、全国平均と同等まで正答率が向上した。 英語教育について、長期休業期間に ALT を各小中学校に派遣し、英語によるゲーム等を行ったことにより、各校児童生徒が英語に親しむ環境づくりを進めることができた。
今後の方向性	確かな学力の向上と学びを支える学習機器の整備については、児童生徒一人ひとりが主体的に自己調整しながら学びを進められるよう「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実の実現に向け、各学校においてＩＣＴ機器の効果的な活用や指導体制の工夫・改善を積み重ね、授業改善に取り組む。 算数・数学については、小学４年生以上を対象に導入しているデジタル教科書を活用するとともに、令和７年度に立ち上げた「学力向上プロジェクトチーム」において、授業改善のアイデアや方法等を協議・分析し、教職員間で情報共有を行うことで、確実な学習内容の定着と学力向上を図る。なお、鬼っ子算数教室については、タブレット端末の自宅持ち帰りやＡＩドリルの導入により、児童の放課後の学習環境が向上していることなどから、令和７年度で終了することとした。 全小中学校の児童生徒を対象に導入したＡＩドリルを授業や家庭学習で効果的に活用することを通し、望ましい学習習慣の確立と家庭学習の定着を図り、「個別最適な学び」を促進する。あわせて、情報モラル教育の継続により児童生徒に正しい知識を身に付けさせ、判断力を高める。あわせて、ＩＣＴを活用した学習環境を充実させるとともに、グループでの話し合い活動の機会を増やし、児童生徒が多様な意見を共有して合意形成を図る「協働的な学び」を深化させていく。 英語教育については、英検チャレンジ事業を継続することで、児童生徒の英語学習に対する関心・意欲の向上や実用的な英語力の強化に努める。また、長期休業中に外国語指導助手を活用した英語に触れる環境づくりを推進し、異文化への理解とコミュニケーション能力の育成を図る。 学校図書館については、全小中学校に学校司書の配置を継続し、授業支援や読書支援の一層の充実を図るほか、児童生徒が安心感や癒やしを感じたり、自分の興味・関心から自己実現につなげたりできる空間として活用されるよう、学校図書館の環境整備を進める。

項 目	3　豊かな人間性の育成
点 検 内 容	豊かな人間性の育成については、学校行事や学級活動、道徳の時間など、全ての教育活動を展開する中で、より良い人間関係を構築しながら、互いの違いを認め合い、個性を尊重する気持ちを育み、自己有用感を高めていく。 また、自然や温泉などの地域資源を生かした体験学習や、登別商工会議所や地元の企業、日本工学院北海道専門学校等と連携した職業体験などのキャリア教育を充実させ、学習成果を積極的に発信する「ふるさと学習」を推進するとともに、ふるさと登別を大切にする心の醸成に努める。 いじめ・不登校の対策については、いじめ問題・不登校の未然防止や早期発見・早期解決に向けた組織的な対応を継続するとともに、「みんなが通いたくなる学校づくり」を児童生徒一人一人が自分事として捉え推進できるよう、「鬼っ子フォーラム」の開催や「ピンクシャツデー」への参画を継続し、経験から得た学びや気付きを各学校へと広げることで、いじめ問題や多様性の理解への意識を高めていく。 また、「ＳＯＳの出し方に関する教育」を全学級で継続し、悩みを相談し合える人間関係づくりに努める。 さらに、不登校児童生徒の対応については、教育支援センターでの個に応じた支援を続けるとともに、各学校で不登校傾向や集団に馴染めない児童生徒の学級以外での居場所づくりに努める。 このほか、近年増加傾向にあるＳＮＳなどのトラブル対策については、児童生徒の情報活用能力を高める中で、望ましいインターネットの利活用に向けたルールづくりや危機管理意識の向上を図るなど、より一層、情報モラル教育の浸透に努める。

取組状況

○自然体験や社会体験、ボランティア活動等、豊かな心を育む体験活動

幌別小	通年　全学年による学級園を中心とした栽培活動　3年生による花壇への花の移植、草取り 通年　栄養教諭による食育指導(全学年) 6/17　食育（明治/１・４・５年） 6/23　食育（ヤクルト/２年生） 12/9　食育（日本醤油協会/３年生） 7/1　食育（メグミルク/６年生） 4/23　交通安全青空教室（雨天のため中止）⇒DVD の視聴（教室での指導） 6/25　2 年生 世代間交流　昔の遊び体験　教育委員会社会教育・地域の方が協力 9/4　乗馬体験(地域学校協働本部事業) 11/14　5 年総合 認知症キッズサポーター養成講座 包括支援センターあおいから講師を招き、地域の現状や認知症について学び、認知症患者に対してサポートすることの大切さについて理解を深めた。 12/12　邦楽鑑賞会 6 年(登別三曲協会協力) 2/10　スキー学習(5･6 年)→保護者・地域ボランティアの方々のご協力をいただき、サンライバススキー場で実施。 6/25　縄文出前講座(6 年)　学芸員から、登別周辺の縄文人の食生活についての話を聞き、本物の土器や石器を触ることができた。縄文文化について、興味・関心を高め、理解を深めることができた。 9/26　3 年登別温泉見学学習　地獄谷や温泉街を散策し、施設見学や体験を通して、地元の観光業の中心である登別温泉について理解を深めることができた。

	7/4　ふぉれすと出前講座(5年)宿泊学習の事前学習として、ふぉれすと鉱山から講師を招き、鉱山町の歴史や鉱山町でとれる岩石、鉱山町付近に生息する動物などについて理解を深めた。 11/27　3年社会科見学(ドーピー建設工業見学) 「ドーピー建設工業」の工場見学を通して、働く人たちの知恵や工夫・苦労について理解を深めた。 11/7　4年総合　見学学習(ウポポイ)　社会科や総合的な学習でアイヌ文化について事前学習を行った。ウポポイ見学では、アイヌ文化の歴史や文化の多様性に気付き、深い学びにつなげることができた 10/31　スマホ･ケータイ安全教室(全学年)　講師：KDDI　携帯電話の使用上のマナーや危険性、問題点に学び、正しい使い方について学んだ。 11/21　薬物乱用防止教室(5･6年　講師：室蘭警察署)　　犯罪の現状について講話を受け、トラブルに巻き込まれないために気を付けるべきことについて理解を深めることができた。 5/28　租税教室6年　室蘭税務署から広報官を招き、税金のない世界のアニメ視聴をすることを通して、税金の大切さについて理解を深めることができた。 11/6　5年総合　福祉出前講座･あいサポート講座(講師来校)　　視覚に障がいのある方を講師として招き、交流を通して、介助など自分たちにできるサポートの体験をし、理解を深めることができた。 2/6　2年生雪遊び（緑ヶ丘公園） 1/29　１年生雪遊び（緑ヶ丘公園） 1/20　6年卒業制作　健千窯から講師を招き、陶芸体験を行った。製作した作品が卒業記念品となった。
幌西小	学級園等での栽培活動(全学年) 4/17　交通安全教室 5/8　租税教室(6年) 5/29 7/8　お迎え訓練(悪天候や野生生物への対応を想定した引き渡し訓練) 6/19, 11/13, 1/22　ふれあい・おたすけ清掃 6/26　縄文出前講座(6年) 7/12　人権教室(2･4年)室蘭法務局 9/3 11/14　栄養教諭食育授業(２・４年) 9/17,18　ドーピー工場見学（３年) 9/20　遠足（１－４年) 10/2　キウシト事前学習(2年、ＮＰＯ法人キウシト) 10/3　アイヌ見学学習(4年) ※ウポポイ 10/8　温泉入浴体験（3年) 10/9　キウシト現地学習(2年) 10/31　マンドリン鑑賞会（3年) 11/14　5年総合　福祉出前講座・あいサポート講座(講師来校) 12/9　１年生活　富士保育所との交流 1/24 2/7　川上公園校外学習（1年) 1/31 英検Jr(4年) 2/5　川上公園校外学習（2年) 2/13　スキー学習(5･6年)

鷲別小	4/9　なかよし登校～14 日 7/14, 15, 17, 18　あいさつ運動（児童会） 6/16　租税教室（６年） 6/19　ヤマト運輸による交通安全教室 7/23　縄文出前講座（６年） 7/8, 9　ふぉれすと鉱山自然体験学習（５年） 9/8　パロマ工場社会科見学（３年） 9/22　世代間交流（１年） 9/19　登別温泉体験（３年） 9/18　ウポポイ、クリンクルセンター見学学習（４年） 7/12　文化芸術による子供育成推進事業（６年） 10/23　福祉学習（５年） 11/27　福祉学習（５年） 12/13　福祉学習（５年） 12/11　ほくでんによる再生エネルギー授業（４年） 11/18　食育指導（３年）→中止 11/21　食育指導（４年）→中止 1/16　スキー学習（５，６年） 2/25　ひなわし委員会によるピンクシャツデーの取組 通年　学級園での栽培活動（全学年）　通年　ベルマーク回収 通年　ひなわしの木へのメッセージ掲示（児童会）
登別小	学級園等での栽培活動(全学年) 4/25　交通安全青空教室(全学年)登別市交通安全協会 4/26　サケの稚魚放流(登別さけ･ます孵化場)※地域支援本部事業 5/14　ふるさと農園でジャガイモの植え付け（2 年）（地域ボランティア参加） 6/11　不審者対応訓練（全学年）・・・(隔年実施) 7/19　ＯＭＢ(おにっこマーチングバンド)地域行事参加(4-6 年)わくわく広場のぼりべつ 7/23　認知症キッズサポーター養成講座(5 年) 8/30　ＯＭＢ地域行事参加(5.6 年)地獄まつり 8/30　ふるさと農園収穫祭(2 年)地域ボランティア参加 9/26　温泉入浴体験(3 年) 10/28　スマホ安全教室(全学年) 10/28　世代間交流(1 年)地域ボランティア参加 10/30　ウポポイ（民族共生象徴空間）見学(4 年)・白老町立虎杖小との交流 11/22　ＯＭＢ定期演奏会（4･5･6 年　保護者参観） 12/18・23　出前福祉講座(3･4 年)登別市社会福祉協議会 1/15・26　スキー学習　3･4 年 1/20・28　スキー学習　5･6 年 2/2　豆まき集会(PTA・地域ボランティアによる) 2/3　スキー学習　1･2 年 3 月　いじめ撲滅にかんする標語作成と表彰(全学年)
富岸小	通年　玄関ホール･各教室での飼育活動 春～秋　花壇や学年園、生活科での栽培活動 1･2 学期　家庭科裁縫学習にて地域人材を活用補助を行う

	6･7･11･12･2 月　児童会活動によるいじめ防止のためのあったか富岸小運動 6/20　租税教室　6 年 6/30　縄文出前講座　6 年 7/16　食育教室　2 年 9/2　福祉出前授業　4 年 9/10　芸術鑑賞（音楽鑑賞） 9/12　温泉入浴体験　コンクリート工場見学　3 年 9/17　食育教室　5 年 9/17　キウシト湿原学習 3 年 10/17 邦楽鑑賞会　6 年 10/25　PTA 富岸小祭り 11/11　ウポポイ見学　4 年 12/2　認知症サポーター養成講座 5 年 2/7　PTA 富岸小もちまき（緑陽中生徒・青葉小児童も参加・地域学校協働活動の一貫） 2/18　スキー学習　5 年 2/20　スキー学習　6 年 2/24　人権教室　4 年
若草小	通年　なかよし（児童会）会によるリングプル回収 通年　学級・学年の昆虫等の飼育ですることにより生き物と触れ合える場としている 4/23　町会下校指導：出会いのつどい（月２回　第１・第３水曜日） 1･2 年の下校を引率してくれる地域の方々とのふれあいの場 5/16　遠足(1～4 年) 5/22　租税教室（6 年） 5/27　ふれあい農園（じゃがいもの植栽　1・2 年） 6/3　札幌交響楽団コンサート（5･6 年） 6/16　食育受業（明治　2 年） 6/18　縄文出前講座（6 年） 6/19　食育授業(ヤクルト　3 年) 6/26　食育授業(カルビー　4 年) 7/1　食育受業（メグミルク　6 年） 7/3　見学学習（郷土資料館、クリンクルセンター　4 年） 7/7　見学学習（3 年　コープさっぽろ） 7/14　食育受業（栄養教諭　5 年） 7/15　世代間交流（2 年） 9/1　いもほり（１年） 9/2～9/3　修学旅行（６年） 9/9～10　ふれあい学習(5 年) 9/12　芸術鑑賞（6 年） 9/19　３年キウシト湿原学習 9/25　ウポポイ見学(4 年) 9/26　見学学習（幌別郵便局　2 年） 10/15　見学学習（三好製作所、ＮＨＫ放送局　5 年） 10/21　入浴体験（地獄谷、カント・レラ　3 年） 10/24　食育授業(栄養教諭　1 年)

	10/29　桜の苗木植樹（６年） 11/21　邦楽鑑賞会（6 年） 11/25　人権教室（2・4 年） 12/15　福祉出前講座（5 年） 12/16　福祉体験講座（5 年） 12/22　認知症サポーター出前講座（5 年） 2/6　5・6 年スキー学習
青葉小	通年　リングプル回収（車いすへの交換活動、児童会活動※生活委員会） 通年　たたら製鉄学習「総合的な学習の時間」（5 年生） 通年　キウシト湿原学習「総合的な学習の時間」（3 年生） 4/24　交通安全教室（全学年） 4/30　ふるさとふれあい農園ジャガイモ植え（2 年生） 5/13　租税教室(6 年生) 5/29　キウシト湿原の会の方による出前授業（3 年生） 8/29　福祉学習　出前授業（視覚障害者を招聘）（4 年生） 9/1　出前授業（車いす体験など）（4 年生） 9/17　見学学習(4 年生)白老ウポポイ 10/1　キウシト湿原での自然体験学習（3 年生） 10/8　温泉入浴体験(3 年) 11/20　認知症サポーター養成講座(5 年生) 1/30　スキー学習　5･6 年
幌別中	通年　毎定期テスト１週間前より、「携帯・スマホ制限期間」を設定(2 小学校とも連携) 社明運動や人権、男女共同参画に係る作文コンクールや書道展への出品 4/24　校外学習(1 年　フォレスト鉱山における自然体験学習) 6/4　すばる学級校外学習(ふぉれすと鉱山) 7/8　「SOSの出し方教室」実施 7/16　ＤＢＡ集会(いじめ撲滅集会) 7/18　1 年生非行防止教室　講師：NTT ドットコム 3 年生非行防止教室　講師：札幌法務局 7/23　2 年生非行防止教室　講師：室蘭警察署 9/19　学校祭において、行灯行列を実施 10/1　すばる学級校外学習(高階果樹園) 11/26　校内主張大会 11/27　2 年生冬休み前啓発集会（薬物乱用防止教室）　講師：室蘭警察署員 12/16　認知症サポーター養成講座(2 年　講師：登別市地域包括支援センター職員) 12/17　保健指導（性の指導）(3 年　講師：happymama bell　代表) 12/19　3 年生冬休み前啓発集会　講師：人権擁護委員 12/23　1 年生冬休み前啓発集会　講師：室蘭警察署員 1/26　保健指導（性の指導）(2 年　講師：登別市スクールカウンセラー) 2/17　保健指導（性の指導）(1 年　講師：登別市保健師)
鷲別中	4/11　3年による通学路清掃 10/3　1･2年による通学路清掃 5月　花壇の土おこし 6月　花壇の花苗植え(ボランティア部、特別支援学級)放課後等を活用

	6/2～6/20 11/4～11/28　生徒会生活向上週間 各委員会の取組実施 5/19　1年生SC道徳（援助希求的態度の育成） 6/2　登別少年の主張大会代表2名参加 6/9　2年生SC道徳（早期の問題認識） 7/1　「いのちのいろえんぴつ」の朗読劇(チームいちばん星)による全校道徳 7/17　2年生道徳（外部講師：レストデザイン） 7/18　携帯安全教室(ＮＴＴスマホ教室) 7/23　3年生SC道徳（ストレス対処能力の育成） 10/8　ウポポイ見学(1年) 10/24　命の授業　室蘭警察署経由　交通被害者協会から講師 11/21 こころのライブ授業　全校道徳（いのちの電話とナイトｄｅライト） 1/19　3年生租税教室（室蘭税務署） 2/25　全市一斉ピンクシャツデーへの取組(実行委員会啓発動画視聴も含む) 2/26　アイシンスポーツ交流（講師：柏木真介氏） 1年 10/29　地域探索(ふるさと学習講演会) 全学年　12/11(3学年)　1/27(2学年)　1/20(1学年)　性教育講話会(性教育) 3年 10/6,7,9　保育実習(鷲別保育所) 3/6　薬物乱用防止講座（室蘭警察署） ギター･マンドリン部　8/6　演奏(鷲小：ひなわしメート)　地域演奏（鷲別神社祭）→6/28
登別中	4/10　携帯・スマホ安全教室(KDDI) 6/2　登別少年の主張大会参加 6/10　1年 豊浦、世界遺産 北海道・北東北の縄文遺跡群での見学学習 7/18　熊舞ヌプル公演 8/2　「絆づくりメッセージコンクール」へのメッセージ応募 8/30　地獄まつり参加　熊舞披露、鬼みこし、吹奏楽演奏実施 外国人観光客に向けて英語で紹介 9/2　生徒会主催いじめ撲滅集会 10/3　校下の清掃奉仕活動(町内クリーン作戦)による地域の環境美化 10/2　1年思春期教室(性教育講座)妊婦体験 10/7　3年思春期教室(性教育講座)性感染症について 10/16 職業体験学習(校区6事業所) 10/28 ふれあいデー　1年：職業講話(坂本陽香氏) 2年：認知症サポーター養成講座(地域包括支援センター) 3年: 薬物乱用防止教室(保護司会) 2/25　ピンクシャツ大作戦 1/21　熊舞引継式 3/18　お茶の間会議開催(登別市社会福祉協議会)
西陵中	9/2,9/22 SC による道徳 事前 11/17　事前アンケート、生徒会執行部に「いじめ防止」のためのスローガン考案依頼 12/11　「いじめを考える会」について、全校協議会を開催し、アンケートのまとめ、スローガン、学級の意見を発表 12/17　全校道徳「いじめ撲滅宣言」行動宣言読み上げ、My Action Card の記入 7/17　1年生自然体験学習(洞爺湖ビジターセンター、西山火口、野菜収穫体験)

	10/2　２年生認知症サポーター養成講座 9/25　１年生ウポポイ見学 10/27　１年生職場体験学習～工学院　２年生職場体験学習(10/29) 12/8　２年生思春期教室～登別市役所保健福祉部健康推進グループ（しんた２１内）より保健師派遣 11/4　JICA出前講座(ヨルダン派遣経験者報告) 2/25　全市一斉ピンクシャツデーへの取組(実行委員会啓発動画視聴も含む) 5/26 6/27 9/26 10/10　生活専門委員会による通学路清掃活動
緑陽中	4/28　SNSトラブル防止集会 7/1　全学年 SOS出し方教育 10/24　１年思春期教室 10/15　３年思春期教室 2/20　２年認知症サポーター養成講座 2/19　全学年 いじめ撲滅集会 2/25　全市一斉ピンクシャツデーへの取組

○「スキー授業」及び「温泉入浴体験」

・スキー授業を各小学校で実施。※実施日程は上表記載のとおり。

・教職員向けスキー研修

実施日：令和８年１月８日（木）　参加者：２０名

会　場：カルルス温泉サンライバスキー場

講　師：登別スキー連盟指導員（３名）

対象者：市内教職員、地域ボランティア

参加数：18名

・温泉入浴体験を各小学校で実施。※実施日程は上表記載のとおり。

○いじめの起きない環境づくりや不登校に対する体制づくり

期日	内容
5/9	第１回いじめ・不登校等対策会議　兼　第1回生徒指導担当者連絡会議 内容：本年度の重点、情報交流 指導力向上研修①：講師：秋葉学務主幹 演題：『いじめ・不登校について』
7/9	第２回いじめ・不登校等対策会議　兼　第２回生徒指導担当者連絡会議 内容：事例研修（不登校児童生徒への対応、いじめ防止対策） 教職員研修会（講演）＊GoogleClassroomによるオンデマンド配信 講師：北海道教育委員会ＳＳＷ 田村 千波 氏 演題：『不登校理解と子ども理解』
９月～１０月配信	第３回いじめ・不登校等対策会議　　指導力向上研修② ＊GoogleClassroomによるオンデマンド配信 講師：関川恭平　胆振教育局指導主事 演題：『教育相談』
11/26	第４回いじめ・不登校等対策会議　兼　第３回生徒指導担当者連絡会議 内容：事例研修（不登校児童生徒への対応、いじめ防止対策）
2/5	第５回いじめ・不登校等対策会議　兼　第４回生徒指導担当者連絡会議

	内容：事例研修（不登校児童生徒への対応、いじめ防止対策）

・「長期欠席児童生徒の報告」当月７日以上、累計 30 日以上　報告に基づき支援策等について検討
・教育支援センター「鬼っ子広場」週１回　学校の申し出で協議し随時実施　３名通級(R6 年度３名)
・体験教室「陶芸教室」（健千窯）水曜午前　学校の申し出で協議し随時実施　10 名通級(R6 年度 14 名)
・自然体験活動（ふぉれすと鉱山での鉱石探し）　9/11（参加者２名）
・教育指導専門員による相談(電話・来室・メール)　８件(昨年度 15 件)
・教育指導専門員等による学校訪問　年２回（７月、12 月）
・不登校等支援関係者情報交流懇談会（心の教室相談員・ＳＳＷ等）　2/5
・保護者相談～希望により随時開催
・いじめ関係　アンケート調査(年２回)　取組状況調査(年２回)　対応状況調査(年３回)
・不登校児童生徒への支援状況の把握（年２回）

○不登校出現件数・いじめ認知件数の推移　（単位：件数）

不登校出現件数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小	3	6	10	9	24	25
中	26	19	31	39	45	34
計	29	25	41	48	69	59

いじめ認知件数の推移

	R2	R3	R4	R5	R6	R7
小	21	34	61	594	775	924
中	6	19	39	81	60	87
計	27	53	100	675	835	1011

○ＳＣ・ＳＳＷ・心の教室相談員の支援　※(　)は昨年度
・ＳＣ（スクールカウンセラー）の相談内容

相談者	不登校	いじめ	暴 力	友人関係	教師との関係	親子関係	心身健康	発達障害	学業進路	その他	合 計
児童生徒	143(139)	5(0)	0(0)	26(71)	0(18)	9(25)	101(13)	10(25)	26(30)	11(14)	331(335)
保護者	99(88)	0(0)	0(0)	8(14)	0(0)	18(8)	60(38)	12(16)	2(4)	2(12)	201(180)
教職員	15(28)	0(0)	0(0)	4(5)	1(0)	4(1)	4(1)	7(21)	0(0)	10(30)	43(87)
その他	4(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	0(0)	4(0)

・ＳＳＷ（スクールソーシャルワーカー）～２名配置　活動状況　全学校を訪問

活動時間	10時～15時45分
対　　象	支援児童生徒　保育所0(0)人　小学校9(4)人　中学校14(11)人　その他0(0)人
問 題 別	不登校15(56)件　暴力行為0(0)件　友人・教職員関係0(0)件　児童虐待0(0)件 貧困0(4)件　ヤングケアラー0(0)件　家庭環境10(21)件 心身の健康・保健に関する問題0(0)件　発達障がい7(16)件 性的マイノリティー0(0)件　その他1(14)件
訪問回数	学校29(32)件　関係機関18(22)件　家庭78(132)件

・心の教室相談員　　相談件数　計 83(183)件
勤務日数　幌別中学校 109 日、西陵中学校 84 日、鷲別中学校 80 日、登別中学校 74 日、
緑陽中学校 68 日

○情報モラル教育～インターネット安全教室

幌別小	10/31　スマートフォンや携帯電話の利用方法・マナーについて学ぶ。 対象　全学年児童、全保護者　講師：KDDI村田様
幌西小	7/8　インターネットやスマホの安全な利用法やネットトラブルなどについて、「auスマホ トラブル講座　初級編」（ユーチューブ）の動画を活用し学級毎に指導（高学年）
鷲別小	12/1　携帯電話インターネット安全教室（５，６年）-ＮＴＴドコモ-
登別小	10/28　スマホ安全教室(全学年)　外部講師：室蘭警察署員 実際の被害事例に基づき、危険性と安全な使用の仕方についての講話。
富岸小	第1・3日曜日　「ノーゲームデー」 2/6　メディアトラブル講座（保護者対象）　※新1年生1日入学に合わせた
若草小	5/13　ＬＩＮＥ安全教室（5年）※オンライン 6/25　ＫＤＤＩスマホ安全教室（1年、4年） 10/2　ＮＴＴドコモ安全教室（2年、3年、6年）
青葉小	5/21 防犯教室「スマートフォン・ネットトラブル等」（４・６年生）　室蘭警察署
幌別中	7/18　1年生ケータイ・スマホ非行防止教室　講師：NTTドットコム 3年生インターネットと人権教室　講師：札幌法務局 7/23　2年生スマホ・ネットの危険性についての教室　講師：室蘭警察署
鷲別中	7/18　携帯安全教室(ＮＴＴスマホ教室) 12/12　スマホ携帯の危険性について 新入生保護者説明会にて新入学生保護者対象(室蘭警察署からの資料配布)
登別中	4/10　携帯スマホ安全教室(講師：KDDI社員) 4/21　非行防止教室(講師：室蘭警察署員)
西陵中	7/16　スマホ・ケータイ安全教室(全学年対象)
緑陽中	4/28　ＳＮＳトラブル防止教室

○インターネット使用に関わる指導や啓発の取組

・小4から中3まで、ゲーム機やスマートフォン等インターネット機器に関する調査を年1回(5～6月)実施

※「自分専用のインターネットが使用できる機器の所有率」　令和7年5月調査結果　※（　）は昨年度

小4　87.7%　小5　87.7%　小6　84.1%　中1　95.6%　中2　96.8%　中3　97.1%

（小4　86.6%　小5　88.3%　小6　94.2%　中1　95.1%　中2　95.7%　中3　96.9%）

※「スマホ所持率」　令和7年5月調査結果　※（　）は昨年度

小4　43.8%　小5　50.8%　小6　54.2%　中1　85.1%　中2　91.2%　中3　94.6%

（小4　36.9%　小5　48.0%　小6　55.8%　中1　84.2%　中2　86.3%　中3　91.2%）

※「スマホ･携帯の1日の使用時間が3時間以上の割合」　令和7年5月調査結果　※（　）は昨年度

小4　14.5%　小5　20.0%　小6　21.7%　中1　30.4%　中2　30.3%　中3　28.8%）

（小4　18.6%　小5　21.7%　小6　24.2%　中1　29.1%　中2　24.2%　中3　37.6%）

・各学校では「ケータイ・スマホ３つのルール」に基づき、児童生徒への指導や保護者への啓発を強化。学校運営協議会で協議する場面も多く見られた。

評　価	小学校では交通安全教室や薬物乱用防止教室、多くのスキー連盟指導員や地域ボランティアの協力の下で実施したスキー学習や温泉入浴体験等を通じて児童においてルールを守り、人間関係を構築していくことの重要性などキャリア教育の一端である人間関係形成・社会形成能力に関する意識付けを行うことができた。また、小学校では併せて公共施設の見学や本市の歴史、

	文化、産業についての学習を行い、中学校においては市内事業所での職業体験などを行うことで、地域への愛着や豊かな心を育むとともに、将来の仕事に対する興味・関心を喚起することができた。 登別市いじめ・不登校等対策会議や教育指導専門員による学校訪問、道教委等いじめアンケート調査等を通して、いじめ・不登校の実態把握に努めるとともに、具体的手だてを共有した。 教育支援センターや各学校の別室指導等において、オンラインでの授業配信や学習アプリを活用した学習支援など、タブレット端末を活用した支援を充実させた。 ＳＮＳ等の普及やコロナ禍を経た生活変化、インターネット等への依存などによる生活リズムの乱れなど児童生徒が抱える問題が多様化・複雑化しており、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、心の教室相談員等が相談支援を行った。また、携帯・スマホの所持率増加を受け、生活リズムの乱れや人間関係のトラブルに対応するため、携帯電話会社等の協力を得て、情報モラルに関する教室・授業を行った。 教育支援センター（「鬼っ子広場」や「健千窯」）では、登校への意欲を高めるために、きめ細やかな支援を行った。支援を必要とする児童生徒が効果的に利用することができるよう、学校や保護者への適切な働き掛けを継続した。
今後の方向性	豊かな人間性の育成については、全教育活動を通じて、学習意欲や人間関係の土台である自己肯定感の向上を目指す。 いじめ対策としては、「鬼っ子フォーラム」やＳＯＳの出し方に関する教育「鬼っ子ＳＯＳ教育」を継続し、いじめの未然防止や、児童生徒が抱える様々な悩みの早期発見・早期解決に向けた組織的な対応を強化していく。 また、不登校支援として、北海道教育委員会が実施する「メタバースを活用した不登校児童生徒支援事業」に参加し、多様な学びの場を確保するとともに、校内外の教育支援センターの運営を充実させ、児童生徒に寄り添った居場所づくりを推進し、心豊かに成長できる環境を整えていく。

項 目	4　健康・体力の向上
点 検 内 容	健康・体力の向上については、各学校の特徴を生かした体力向上の取組を推進するとともに、小学校の体育授業などへのスポーツ指導員の派遣を継続し、各学校の課題を焦点化した体育指導の改善や運動の習慣化を図り、体力向上に向けて組織的に取り組んでいく。 また、規則正しい生活習慣を身に付ける取組として「早寝早起き朝ごはん」の徹底を家庭へ粘り強く啓発する中で、心身ともに健全な児童生徒の育成を図る。

取組状況

○令和７年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果と分析（実施時期：令和７年４～７月）

小学校　５年男子

	実施数	身長（cm）	体重（kg）	握力（kg）	上体起こし（回）	長座体前屈（cm）	反復横とび（点）	20mシャトルラン（回）	50m走（秒）	立ち幅とび（cm）	ソフトボール投げ（m）	体力合計点（点）
全国	389,116	139.5	35.0	16.0	19.5	33.9	40.9	47.9	9.5	150.9	21.1	53.0
北海道	9,623	140.1	36.7	16.8	19.3	34.4	42.5	47.2	9.7	152.0	21.9	53.6
R7登別	**130**	**139.4**	**36.6**	**15.9**	**18.7**	**37.6**	**42.4**	**47.6**	**10.0**	**151.2**	**21.5**	**53.0**
R6登別	164	140.1	35.7	16.21	18.1	35.9	41.5	45.3	9.7	151.3	19.8	52.3
R5登別	187	139.5	35.7	15.4	18.2	35.9	42.0	50.0	9.8	149.9	19.7	52.4

小学校　５年女子

	実施数	身長（cm）	体重（kg）	握力（kg）	上体起こし（回）	長座体前屈（cm）	反復横とび（点）	20mシャトルラン（回）	50m走（秒）	立ち幅とび（cm）	ソフトボール投げ（m）	体力合計点（点）
全国	389,294	140.8	34.7	15.6	18.4	38.2	38.7	36.9	9.8	142.3	13.1	54.0
北海道	9,341	141.5	35.9	16.3	18.1	38.7	40.2	36.3	10.0	144.3	14.0	54.6
R7登別	**119**	**141.0**	**35.6**	**15.7**	**17.7**	**40.1**	**39.8**	**36.0**	**10.1**	**145.4**	**13.7**	**54.5**
R6登別	120	142.0	36.8	16.5	17.5	40.0	40.2	36.0	10.0	144.7	13.5	54.3
R5登別	140	142.0	36.6	16.3	17.2	42.7	40.1	39.0	9.9	145.1	14.0	55.4

中学校　２年男子

	実施数	身長（cm）	体重（kg）	握力（kg）	上体起こし（回）	長座体前屈（cm）	反復横とび（点）	持久走（秒）	20mシャトルラン（回）	50m走（秒）	立ち幅とび（cm）	ハンドボール投げ（m）	体力合計点（点）
全国	364,648	161.3	50.1	29.0	26.1	45.1	51.6	409.3	78.8	8.0	197.5	20.7	42.2
北海道	9,754	162.2	52.1	29.6	25.6	43.6	50.4	431.1	75.2	8.2	195.8	20.6	41.1
R7登別	**124**	**161.9**	**51.1**	**28.5**	**26.0**	**46.2**	**49.8**	**395.6**	**82.7**	**7.9**	**195.1**	**20.0**	**41.6**
R6登別	125	162.0	52.9	27.4	24.1	42.9	49.2	416.2	78.4	8.1	190.2	17.9	38.1
R5登別	122	161.7	50.3	28.0	23.0	42.3	46.7	452.0	74.1	8.4	191.2	18.87	37.4

中学校　２年女子

	実施数	身長（cm）	体重（kg）	握力（kg）	上体起こし（回）	長座体前屈（cm）	反復横とび（点）	持久走（秒）	20mシャトルラン（回）	50m走（秒）	立ち幅とび（cm）	ハンドボール投げ（m）	体力合計点（点）
全国	363,389	155.1	46.9	23.2	21.7	47.0	45.7	309.7	50.6	9.0	166.4	12.4	47.6
北海道	9,490	155.4	47.7	23.2	20.9	45.6	44.4	327.2	46.8	9.2	162.8	12.3	45.6
R7登別	**120**	**156.0**	**48.2**	**22.3**	**18.6**	**46.0**	**41.8**	**307.3**	**42.8**	**9.1**	**156.3**	**11.8**	**42.0**
R6登別	121	155.4	48.4	22.5	20.3	45.9	43.8	277.2	49.2	9.0	161.6	11.9	45.1
R5登別	128	155.1	47.33	22.6	18.13	44.4	43.4	353.3	48.15	9.2	161.4	11.6	43.1

＜小学校男子＞
・体力合計点は、全国平均とほぼ同等である。
＜小学校女子＞
・体力合計点は、全国平均とほぼ同等である。
＜中学校男子＞
・体力合計点は、全国平均とほぼ同等である。
＜中学校女子＞
・体力合計点は、全国平均を下回っている。

○体力向上一校一実践内容

幌別小	短縄　記録カードをもとに練習(全学年、通年) 長縄記録会(全学年 12 月)全校で記録会実施
幌西小	短縄による日常的な体力づくり(全学年、通年)　　短縄週間の取組(年２回)
鷲別小	1/30　縄跳び記録会　　「がんばりカード」の年間活用 休み時間のキャッチボール(通年 週１回)
登別小	なわとび(全学年、通年)自己目標を設定　体力づくりの時間に取り組む。 すもう(1～3 年　8～9 月)体育の時間に実施、登別場所（9 月）を設定する。 シャトルラン(全学年　年３回)　自己目標を設定、体育の時間に取り組む。 スキー(全学年 1～2月)　築山・グラウンド(1･2年使用)　スキー場(1･2年1回、3～6年2回)
富岸小	マイペースラン(全学年、9月) 長縄大会(11月下旬～12月中旬に各学年で開催) とんけし運動広場(おにスポ主催)
若草小	なわとび　休み時間に「なわとびカード」の名人を目指して取り組む(6 月～12 月) 「短縄記録会」(9 月)の開催 休み時間にボール投げ運動など日常的な体力向上の取組 2/6 スキー学習（5・6 年）
青葉小	「新体力テスト」実施（全学年） 短縄跳び(全学年、6～2 月)学級ごとに取り組む。 「エンジョイタイム」(休み時間を活用した全員遊びの取組※児童会活動）の実施（6～9 月）
幌別中	1/26　2学年ダンスインストラクターの授業 ダンス指導学年単位で発表(3学期) 保体専門委員会による各学年ごと球技交流会の実施(3学期)

鷲別中	2年生 新体力テストの結果を受けて、体育科通信の発行と体育授業での補強運動を実施 2年生 2月ダンス指導及び発表会の実施
登別中	導入5分間アップ(全学年・通年)授業導入時筋トレ、コーディネーショントレーニング実施 体力アップイベント(全学年)2525マラソン、全校スポーツフェスティバルなど生徒による企画と実行 「新体力テスト」実施（全学年）
西陵中	保健体育の授業において毎時間必須の基礎体力作り運動を実施
緑陽中	「新体力テスト」実施（全学年）　長縄跳び(全学年体育科で実施)

○体育コーディネーターの活用による体育授業及び体力向上の支援(子ども健康・体力改善事業)

委託先　ＮＰＯ法人「おにスポ」

市内全小学校にスポーツ指導員を１校当たり授業で年間 209.25 時間以上開催。

実施内容　①「体育の授業」質向上支援～・柔軟性・俊敏性を養う動きを取り入れた準備運動の導入

②実技の手本を見せ、児童へ体の動かし方やコツ、練習のポイントのアドバイスを実施

③準備運動で、単位時間の中で行う運動に必要な筋肉を使う体操を導入

④体力向上を図る取組の支援～・おにごっこや球技を取り入れた遊びへの参加について、積極的に児童に働き掛けることで、運動への意欲の向上を図るとともに、運動不足の解消、持久力、瞬発力を高められるような取組を実施

⑤新体力テストの実施に関する指導補助

実績　　授業実施時間

鷲別小	若草小	富岸小	青葉小	幌別小	幌西小	登別小
209.25	209.25	209.25	209.25	209.25	209.25	209.25

○栄養教諭による食育・給食指導

・勤務校での指導状況

幌別小　２年　11/6　給食センター見学

５年　12/16　栄養に関する学習

６年　11/7　栄養に関する学習

※その他の指導　１１回

幌別西小　２年　7/8　朝食の大切さ

５年　9/2　栄養素の働き

・派遣先での指導状況

若草小　7/14　５年　望ましい食生活　7/18　１年　給食を楽しく食べよう

青葉小　10/24　２年　楽しく食べよう　11/14　４年　感謝して食べよう

富岸小　7/16　２年　朝食の大切さ　9/17　５年　栄養素の働き

○薬物乱用防止教室

幌別小	11/21　5･6年 危険ドラックも含めた非行の実態について室蘭警察署員（向井様）による講話
幌西小	12/16　薬物乱用防止教室
鷲別小	6年　シンナーや麻薬の恐ろしさについて、担任による指導（保健の授業で実施）
登別小	10/28　5・6年 薬物乱用防止教室　講師：室蘭警察署員
富岸小	2/27　6年薬物乱用防止教室 室蘭警察署員から薬の恐ろしさと使用は絶対にいけない旨の講話(喫煙も含む)

若草小	12/10　非行防止教室（6年）
青葉小	薬物乱用防止に関する資料等を活用し、学級担任が保健の時間に指導
幌別中	7/22　非行防止教室　　講師：市教委社会教育G職員 12/19　1年生冬休み前啓発集会　講師：室蘭警察署員
鷲別中	3/6　　3年 薬物乱用防止教室(室蘭警察署)
登別中	10/28　3年薬物乱用防止教室(保護司会)
西陵中	11/25　3年 室蘭警察署員による、薬物全般に関する講話
緑陽中	11月　薬物乱用防止授業

評　価	全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、体力合計点は、小学校男子女子が全国平均と同等、中学女子が全国平均をやや下回り、中学男子が全国平均を下回った。 小学生は「長座体前屈」について全国平均を上回っており、柔軟性が備わっていると考えられる 。 また、小学生は「反復横とび」「立ち幅とび」が全国平均を上回っていることから瞬発力について評価できる一方で 20m シャトルランは全国平均を下回っていることから持久力に課題があるものと考えられる。また、中学生は全般的に全国平均を下回っており、疾走能力、筋パワー・筋持久力、敏捷性を高める取組を進めていく必要がある。
今後の方向性	たくましく生きるための健康や体力の向上については、各学校の課題を踏まえた「１校１実践」の取組を継続していく。 また、子どもの体力向上には運動時間のみならず、睡眠や食生活等の生活基盤も重要な要素であることから、家庭や地域と連携を密にし、スマートフォン等の電子メディアの利活用に関する啓発や「早寝早起き朝ごはん」の推奨など、望ましい生活習慣の定着を一体的に図る。

項 目	5　教職員の人材育成
点 検 内 容	教職員の人材育成については、実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教職員の育成に努める。 ＩＣＴの効果的な活用については、市教育委員会デジタルフェローと連携し、引き続き指導力向上研修を開催するほか、新たに生成ＡＩの活用による校務改善を進める。 また、各種会議や校内研修でのケース会議などを通じて、教職員の資質・能力である生徒指導力や組織的な対応力を高めていく。

取組状況

○登別市教育実践研究奨励校

学校名	領域･教科	研　究　主　題	年度
登別小	学習指導	言葉のよさを認識し、共生・協働・表現・継続しながら 高め合う子どもの育成 ～国語科における、「協働的な学び」の充実を目指して～	６・７
幌別西小	学習指導	西小プラス ONE! ～主体的に学ぶ力を身に付けさせる授業を目指して～（通常学級） ～一人一人が「分かった」「できた」を実感できる授業～（特別支援学級）	６・７
青葉小	学習指導	どの子にも『わかる喜び』『学ぶ楽しさ』を味わわせる算数科指導のあり方（令和６年度） 子どもが自立的に学び進めることができる授業のあり方（令和７年度）	６・７
幌別小	学習指導	自律的に学ぶことができる子の育成 ～児童が自律的に学ぶ力の向上を目指した授業観の転換～	７・８
幌別中	学習指導	自ら学び、意欲的に学習する生徒の育成 （副題）～主体的・対話的で深い学びの実現に向かう授業実践～	７・８
緑陽中	学習指導	『生徒一人一人を主語とした授業づくり～生徒が自己調整しながら学びを進め、自立した学習者となるための指導方法を目指して～』	７・８

○働き方改革の推進

・「登別市立学校における働き方改革基本方針(平成 30 年 10 月策定・令和２年３月改定)」に基づき、教員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備に努める。

【基本方針の目標】

教育職員の在校等時間から所定の勤務時間等を減じた時間(いわゆる「時間外在校等時間」)を１か月で 45 時間以内、１年間で 360 時間以内とする。

【目指す指標】

1 部活動休養日(平日週１日・休日週１日・学校閉庁日の年間合計＝115 日)を完全に実施している。
2 変形労働時間制を活用している。
3 定時退勤日を月２回以上実施している。
4 学校閉庁日を年９日以上実施している。　※以上４指標は、令和元年度中に達成している。

【主な具体的取組】令和元年度以降に検討又は実施したもの(以前から実施済みの取組は除く)

1 教職員の事務負担を軽減する校務支援システムを導入(令和３年度末に試行、４年度から導入開始)。
2 給食費については、給食費管理システムを導入(令和３年度から導入開始)
3 部活動指導員を配置(令和７年度は２名配置)。
　幌別中バレーボール部１名
　緑陽中バスケットボール部１名

4 在校時間を客観的に計測するシステムを導入(平成 31 年４月から記録を開始)。

5 留守番電話の設定(平成 31 年４月から対応を開始)

6　登別市立学校職員在宅勤務実施要領を策定し、令和７年夏季休業から実施。

【その他】

令和７年６月に改正された「公立の義務教育諸学校等の教育職員の給与等に関する特別措置法」により、教育委員会に「業務量管理・健康確保措置実施計画」の策定及び公表が義務付けられたことを踏まえ、令和８年３月に「登別市立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画」を策定した。

ICT活用の取組状況

○登別市情報教育推進協議会

・第１回　日時；令和７年４月２５日（金）１４：３０より

会場：市民会館 大会議室

内容：①NEXT GIGA に向けた端末更新、ネットワーク整備について

②タブレット端末のフィルタリングについて

③スマイルネクストドリルの活用について

④今年度の ICT 活用研修について

⑤生成 AI GEMINI の校務への使用状況についての交流

⑥各校の ICT 活用状況の情報交流

・第２回　日時：令和８年３月２５日（水）１３：３０より

開催方法：GoogleMeet によるオンライン開催

内容：①市教委からの情報提供

・次年度の ICT 整備事業について

・学校教育情報化推進計画（第二期）案について

②各校意見交流

・スマイルネクストドリルの活用状況について

・ウィンバードの活用状況について

・心の健康観察の実施状況について

・帯域改善後の状況について

○令和７年度登別市教職員研修会

・日　時：令和７年７月２８日（月）９：３０～１１：３０ 登別中校区、幌別中校区、西陵中校区

令和７年７月２９日（火）９：３０～１１：３０ 緑陽中校区、鷲別中校区

・会　場：幌別小学校 外国語ルーム

・参加者：市内小中学校教職員　→　参加５１名

・内　容：Google 活用力向上研修　講師　Google 社より派遣

○のぼりべつＩＣＴ情報交流（Google クラスルーム　2021.4 より継続）

Google クラスルームの機能を活用し、市教育指導専門員が運営し、定期的な更新を図っている。主に各校の端末活用や授業の実際、国や道の最新動向、端末機能及び活用の実際、研修資料等を掲載。

各校の推進委員と市教委担当が参加する Google チャット「情報教育推進協議会」を活用し、情報交流やトラブルへの迅速な対応を図っている。

評　価	登別市教育実践研究奨励校として６校を指定し、各校の研究の経緯や実態に即した「学習指導」に関する取組を支援した。奨励校においては、研究授業や日常の授業実践等を通じ、教職員が相互に専門性や資質・能力の向上に取り組むとともに、タブレット端末の日常的な活用により、「主体的・対話的で深い学び」を視点とした「個別最適な学び」や「主体的に学習に取り組む態度」の育成を意識した授業改善の研究を進めることができた。 ICT を活用した指導力向上研修については、当該年度に本市に着任した教職員や ICT の活用に悩みをもつ教職員を対象としたことで、個人のスキルに応じた研修を行うことができた。また中学校区単位の開催とすることで近隣の学校間での情報交流を深めることができた。 教職員の働き改革については、業務の一層の効率化や部活動指導員導入の継続等により時間外在校等時間の縮減を図ることができた。
今後の方向性	教員の資質の向上については、実践的な指導力や専門性の向上に意欲的に取り組む教職員の育成に努め、教職員が互いに研鑽を深める場として、引き続き「登別市教育実践研究奨励校」や「登別市教育研究会」の活動を強力に支援していく。 教職員が心身ともに健康な状態で、専門性を発揮できる環境を整えるために、生成ＡＩの活用を含めた校務ＤＸによる校務等の効率化に取り組んでいくことで、教職員の「働きやすさ」と「働きがい」を両立させ、働き方改革を一層推進し、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保していく。

項 目	6　幼保小中連携・小中一貫教育
点 検 内 容	幼保小中連携・小中一貫教育については、登別市幼保小中連携協議会をはじめとする各種会議を通じ、相互参観や教職員の連携強化を図り、子ども同士の交流を継続することで、スムーズな校種間の接続や子どもの不安解消に努める。 また、各中学校区で「目指す子ども像・１５歳の姿」を共有し、小中学校９年間を見通した学習指導や生徒指導の連携強化を図る。

取組状況

○令和７年度の幼稚園・保育所と小・中学校の連携事業

事　　案	発 信 元	内　　容
不審者情報・凶悪事件	社教G･学校	・警察・胆振教育局からの情報：市、学校区の対応
行事案内	学校	・年間行事予定・学芸会･運動会･卒入学式案内
教育委員会広報	教育総務G	・教育行政全般の活動報告

○日常の情報交流、指導者・子どもの交流について

幼保･小･中 連携協議会	幼保小中	9/29　登別市幼保・小・中連携協議会 出席：幼稚園代表･保育所代表･校長会代表･教育委員会 内容：令和８年度の連携の在り方と取組について
	幼保小	9/29　実務担当者会議（幼保小間の連携による子どもへの指導や関わりを円滑に進めるための情報交流・意見交換を実施） 出席：市内幼稚園・認定こども園13名・市内保育所3名・市外幼稚園9名 市内各小学校教諭15名・こども育成G 1名・市教委7名 3/25・26「幼･保･小」実務担当者会議〔合同引継会〕（就学前の個々の実態やアレルギー等配慮が必要な事柄、就学後予想される課題についての情報交流・意見交換を実施） 出席：登別市内の幼稚園・保育所15名、室蘭市内の幼稚園・保育所14名 市内各小学校19名・市教委2名
１日体験入学	幌別小	2/5 新1年生と現1・２年生の交流を生活科の授業体験などを通して実施 同日、保護者説明会・教材購入も実施した。
	登別小	1/30 次年度就学予定幼児を対象に実施、同日に保護者を対象とした学校説明会・PTA 説明会、教材販売を実施。
	幌西小	1/30　１日入学・入学説明会 本校１年生児童と新１年生が交流（１年生と一緒にものづくり）
	富岸小	2/6 一日入学・入学説明会
	若草小	2/4 新１年生１日入学・保護者説明会実施
	青葉小	2/4　一日体験入学・保護者説明会
	鷲別小	2/5　新一年生１日入学・保護者説明会
	登別中	11/11　新入生体験入学　教育活動等説明、授業体験、統合に関する説明
	幌別中	11/19　新入生体験入学、授業体験（数学・音楽）・保護者説明会
	西陵中	11/10　新入生体験入学・保護者説明会（概要説明、授業見学）
	緑陽中	11/5　新入生保護者説明会　学校の概要説明、授業見学
	鷲別中	10/21・22　新入生体験入学Ⅰ　授業参観、学校の概要説明 11/25・26　新入生体験入学Ⅱ　授業体験（数学・英語）

交流活動	西陵中 校区	小中合同挨拶運動(朝、本校生徒会と幌西児童会)　7月、11月 5/14 6/18 7/23 10/28 2/25　小中合同自立活動（西陵中会場　5回） 10/3　英検小中合同実施（西陵中会場） 3/16　出前授業（音楽科） 5/23　10/31　2/27　小中一貫教育推進協議会(両校分掌代表教員による研究協議を3回実施)
	幌西小	5/14　小中合同自立活動（幌西小会場） 5/21　第1回小中推進協議会（部会・計画） 9/18　西陵中学校祭見学（５年） 10/1 10/2　登別明日生徒　インターンシップ受入（３名） 10/6　登別明日生徒との英語交流 10/22　学習発表会に白菊幼稚園児とカトリック幼稚園児を招待 10/31　小中一貫推進事業・小中交流（小学校授業公開） ※第２回小中一貫教育推進会議を兼ねる。 11/10　６年生西陵中学校体験入学および保護者説明会 11/21　カトリック幼稚園との交流（1 年生） 11/27　ICT 出前研修（幌西小教諭が西陵中で講座） 12/12　富士保育所との交流（2 年生） 2/27　第 3 回小中一貫教育推進協議会（部会・反省・ICT 研修） 3/4　特別支援学級中学校訪問（音楽祭）
	鷲別中	9/1 中学校区教員合同研修（全体研修、部会協議）会場：鷲別小 5/22,8/29,1/22,2 月(書面) 鷲別中学校区小中連携協議会 9/1 小中交流授業公開（鷲別小授業公開） （鷲中 10/28 公開研究会で参観、若小 11/28 公開研究会で参観）
	鷲別小	10/21　11/25 鷲別中学校体験入学 12/15　1/26 居住地交流 12/18　鷲別保育所年長児授業参観（１年生） 1/8　鷲別保育所年長児校舎見学
	若草小	9/1　鷲別中学校区小中連携交流会（会場：鷲別小学校） 1/28　リリー文化幼稚園児との交流（1年生　会場：若草小学校） 10/1～2 北海道登別明日中等教育学校４回生インターンシップ受入れ(2名) 10/22　北海道登別明日中等教育学校2回生職業体験受入れ(2名) 10/22、11/26 鷲別中学校体験入学（6年生）
	幌別中 校区 幌別中	5/30 校区内合同研修会（幌別中授業参観、グループ別協議） 10/16・17　室蘭栄高等学校生１名のインターンシップ受け入れ（1 名インフルエンザで中止） 2/24　出前授業(音楽科教員による６年生対象合唱指導)
	幌別小	10/27　カトリック幼稚園年長児と1年生の交流(ハロウィン) １年生がカトリック幼稚園を訪れ、年長児と交流。学習発表会の際のダンスの交流を行った。 11/28　カトリック幼稚園年長児と1年生の交流(秋のたからものランド) カトリック幼稚園の園児を招いて、生活科で準備してきた「秋のたからものランド」で楽しんでもらう交流を行った。（R7はインフルエンザ流行のため中止）

		12/10　本校職員(言語通級教室職員４名)リリー文化幼稚園授業参観
	登別中	6/16　登別中校区小中合同研修会① 2/19　出前授業(6 年生)　登別中校区小中合同研修会②
	登別小	11/5　コロポックル年長　2 年生活科に参加 2 年生が生活科でおもちゃを作成し、園児が遊ぶ形式での交流 11/11　登別中学校体験入学（6 年生） 2/19　登別中学校教諭出前授業（6 年生）
	緑陽中	5/7　2/27　三校合同研修会 7/11 7/15　青葉小・富岸小に出前授業（６年生、数学）
	富岸小	5/7　緑陽中学校区三校合同研修会 7/15　緑陽中学校出前講座（6 年生） 11/5　緑陽中学校 1 日体験入学（6 年生） 2/9　富岸小・青葉小 小小連携オンライン授業（6 年生・外国語） 2/16　富岸小・青葉小 小小連携オンライン授業（6 年生・外国語） 2/27　緑陽中学校区三校合同研修会
	青葉小	5/7　緑陽中学校区三校交流研修会① 11/5　緑陽中学校1日体験入学（6年生） 2/27　緑陽中学校区三校交流研修会②
小中合同 避難訓練	鷲別中 校区	9/6　避難訓練開催（津波）→日程調整上合同開催中止（若草小・鷲別小）
家庭科 ～保育体験	鷲別中	10/6,7,9 3 年生　鷲別保育所で保育実習
	緑陽中	10/21、10/23、10/28　３年生　ふれ合い体験学習（富岸子育てひろば）
	西陵中	10/9　3 年生富士保育所「幼児とのふれあい体験」
総合的な学習 の時間	幌別中	7/4　3 年生　工学院訪問 7/17　2 年生　職場体験 10/3　1 年生　ウポポイ学習 12/18　1 年生　講演会（地域の講師を招きキャリア学習）
	登別中	10/16 職業体験 2 年生 コロポックルの森･わかさいも本舗他、校区内事業所
	西陵中	9/25　1 年生　文化体験学習(ウポポイ) 10/29　職業体験 2 年生　市内各受入先にて体験 10/27　職場見学 1 年生（工学院）
	鷲別中	10/8　1 年生　ウポポイ学習 10/29　1 年生　講師を招き、ふるさと（キャリアに関して）講演会 10 月　1 年生　地域探索（キャリアプランの作成を絡めて） 1/27,30　2 年生　日本工学院体験授業 （職業体験学習に代わって上級学校訪問）
	緑陽中	7/4　１年生　ウポポイ見学学習 10/16　２年生　職業体験 11/17、11/19、11/21　３年日本工学院訪問学習
幼稚園・保育 所視察	幌別小	12/10　本校職員(言語通級教室職員４名)リリー文化幼稚園授業参観
	幌西小	2/17白菊幼稚園視察、2/10カトリック幼稚園視察 12/4、12/5、2/20　カトリック幼稚園教員が幌別西小参観日を視察
	登別小	1/29、2/16　コロポックルの森授業参観
	鷲別小	11/14 リリー文化幼稚園公開保育視察

	富岸小	6/7　運動会にて白菊幼稚園、文化学園付属幼稚園、もみの木こども園、ベネディクト幼稚園来校視察 10/9　学習発表会児童公開にて白菊幼稚園年長児が参観 10/11 学習発表会にてベネディクト幼稚園来校視察 2/16　もみの木こども園年長児来校　１年生交流授業 2/19　　白菊幼稚園年長児来校　学校探検 2/27　登別カトリック聖心幼稚園年長児来校　１年生交流授業 ※1～3 月　教頭、登別・室蘭の全保育園・幼稚園を視察
	青葉小	白菊幼稚園の避難訓練場所として敷地内を提供（年複数回） ３月中に、教頭・（教務主任）が白菊幼稚園を視察
	若草小	２月中に次年度入学予定の児童が在籍している市内・近隣の幼稚園・保育所・こども園に教務主任、養護教諭が視察に行く。 2/16 白菊幼、2/17 鷲別保、2/19 中嶋幼、2/20 もみの木,2/24 ベネ幼, 2/25 室美園幼,2/26 登カトリック幼,2/27 文化付属幼,3/5 リリー幼
	登別中	10/16　職業体験の時に合わせてコロポックルの森を視察
	鷲別中	10/6,7,9 3 年生　鷲別保育所園児に手作りおもちゃを贈呈
	緑陽中	保育体験の時に合わせて富岸子育て広場を視察
	幌別中	東保育所の避難訓練場所として敷地内を提供
	西陵中	職業体験に合わせて市内幼稚園を視察 10/29 登別立正学園認定こども園白菊幼稚園

○小中一貫した教育の推進

市内全中学校区で推進協議会の立ち上げ～目指す子ども像の検討、取組内容の検討、企画、実行。
中学校区内で合同研修会開催～校区内の教職員で目的や課題の共有。具体的な取組内容の確認。
全ての中校区で、学校評価の項目の一部を統一し、成果と課題の共有化を図る。

評 価	幼稚園、保育所、小学校の関係者による実務担当者会議では、幼保小間の連携の計画や情報交流・意見交換を実施した。 また、合同引継会では、小学校に入学する幼児一人一人について、配慮事項等について情報共有を図った。 小中一貫教育については、中学校区ごとに複数回互いに授業参加や意見交換会をするなど、学習指導や生徒指導の向上を図った。
今後の方向性	幼保小中連携・小中一貫教育については、子どもたちの発達段階に応じた、切れ目のない一貫した教育活動の推進に努める。 幼保小連携については、就学前の幼児期における学びや生活を円滑に小学校教育へつなげるため、相互参観や情報交換を継続するとともに、児童が安心して学校生活をスタートできるよう「スタート・カリキュラム」について、幼稚園や保育所などからの意見や要望を反映しながら改善を図っていく。 また、小中連携については、義務教育９年間を見通した中学校区での目標「１５歳の姿」を小中学校教職員で共有し、相互授業参観などを通して授業改善を図るための合同研修を実施しながら、小中一貫教育をより一層推進していく。

項 目	7　特別支援教育
点 検 内 容	特別支援教育については、教育支援委員会による教育相談の実施や関係機関との連携を強化し、切れ目のない一貫した指導や支援体制を確立するとともに、各学校においては特別支援教育コーディネーターが中心となり、個別の教育支援計画や指導計画を作成し、複雑化、多様化する個々のニーズに応じた指導・支援を継続していく。

取組状況

○市内小中学校の特別支援学級の状況　　（　　）内は前年度

	小　学　校	中　学　校
知的障害学級	7学級35名(8学級29名)	4学級15名(5学級16名)
自閉･情緒学級	10学級60名(9学級49名)	5学級23名(6学級20名)
肢体不自由学級	4学級4名(3学級3名)	2学級2名(1学級1名)
病弱・身体虚弱学級	1学級1名(設置無し)	1学級1名(設置無し)

担当教員	54名(40名)
介助員	9名(8名)
学習支援補助員	22名(20名)

担当教員はハーフ勤務6人含む

○登別市教育支援委員会の取組

①就学前からの教育相談や就学指導

	担 当	内　　容
パートナーティーチャー派遣事業	学教G	特別支援学校教員による小中学校の発達障がいを含む障害のある児童生徒に対する指導・支援 活用校～若草小１名　幌西小２名
巡回教育相談	学教G	道特別支援教育センター相談員による就学や発達に関わる相談 ［学びの場の助言を希望する相談］ 市内小中学校２名・未就学１名 ［学びの場の助言を希望しない相談］ 市内小中学校９名
巡回相談	学教G	胆振管内専門家チームによる望ましい教育的対応や学級経営及び教科指導等における適切な指導・支援に関する相談 活用校～鷲別小４名
教育支援委員会 9月～12月	学教G	適正就学に向けた取組 ・担当員の幼稚園･保育所訪問観察･検査、担当者との懇談 ・諮問：10/30　　答申：12/9　　（全委員出席） ・総合検査：11/5　検討審査：11/25～11/27
市教委担当員の幼保等訪問	学教G	9～12月実施
１日体験入学	全小学校	1～2月各学校で実施

②その後の一貫した支援

・各種研修会

【登別市特別支援教育振興協議会主催　夏季研修会】

日　時：　8/5　　９時３０分～１１時３０分　　場　所：登別市民会館

内　容：「特別支援教育の充実と専門性の向上」

講　師：北海道教育庁胆振教育局　教育支援課学校教育指導班　指導主事　田中　麻美　氏

【登別市特別支援教育振興協議会主催　冬季研修会】

日　時：　１２/２６　　１０時～１２時　　場　所：登別市民会館

内　容：「自立活動と生活単元学習の指導について」（リモート）

講　師：北海道立特別支援教育センター 研究員（知的障がい教育室） 小幡 史門 氏

・登別市特別支援教育振興協議会主催　特別支援学級作品展 10/17～10/24
目　的：作品を通した交流により間接的に思いを感じたり伝えようとしたりする態度を育成し、コミュニケーション能力の向上を図る。

・関係部局との連携
○５歳児相談（保健福祉部健康推進グループ）　　年８回
子どもの状況を早期から把握し、学教教育にスムーズにつながるよう、市内の小・中学校での特別支援の状況の説明や子供の様子に不安のある保護者との教育相談を実施した。

5/23	初就学に向けた説明会９名	教育相談０名
6/25	初就学に向けた説明会６名	教育相談０名
7/18	初就学に向けた説明会10名	教育相談０名
9/26	初就学に向けた説明会10名	教育相談１名
10/16	初就学に向けた説明会12名	教育相談０名
11/21	初就学に向けた説明会16名	教育相談１名
1/23	初就学に向けた説明会13名	教育相談０名
2/6	初就学に向けた説明会15名	教育相談１名

○就学説明会（保健福祉部障がい福祉グループ）
次年度就学する子がいる家庭を対象に「就学の流れを知ろう」をテーマに実施した。
日　時：　６/２５　　10時～12時30分　　登別市民会館
講話参加者：５名　個人懇談：３名

評　価	登別市教育支援委員会の活動については、業務改善に取り組みながら、各学校の特別支援教育コーディネーターや関係機関の担当者、保護者とのきめ細かな連携に努め、就学（教育）相談を適切に実施し、一人一人の教育的ニーズに応じた教育の充実を図ることができた。特に、新入学児童の就学に関わっては、教育委員会の担当調査員が幼稚園、保育所、療育機関等を訪問し、児童の観察、担当者からの聞き取りを丁寧に行うなど、児童・生徒の適正な学習環境の整備を目指して取り組んだ。 また、学校における支援ファイル「ふくはうち」の利用促進のほか、保健福祉部健康推進グループや障がい福祉グループが行う就学前の児童を対象とした相談の機会に、特別支援教育の説明や個別の教育相談を実施し、教育と福祉が連携することで、一貫した子育て環境を目指した取組を推進することができた。 言語障害通級指導教室（幌別小・鷲別小）では、言語障害に加えてコミュニケーションや情緒面の困難を併せもつ児童の指導に取り組むことができた。
今後の方向性	特別支援教育体制づくりについては、教育相談の充実や医療・福祉機関との連携を強化し、ＩＣＴを効果的に活用して個の特性に応じた指導の充実に努める。また、増加傾向にある通級指導教室の今後の在り方について、検討を進める。

※登別市支援ファイル「ふくはうち」とは…障がいのある方や発達に心配のある方の情報を保健・福祉・医療・教育・就労などの関係機関で共有することで、地域の中で一貫した継続的な支援が受けられるよう、本市保健福祉部障がい福祉グループが作成したもの。

項 目	8　安全対策・安全指導
点 検 内 容	安全対策・安全指導については、防災教育の一環として、学校が実施する避難訓練や一日防災学校、フェーズフリーの考え方を意識した日常的な取組により、防災意識や危険予測意識が高まるよう、安全指導を繰り返し行っていく。 危機管理マニュアルについては、いざというときに迅速かつ的確に対応できるよう、日頃から確認し状況に応じた改善を図っていく。 また、日常的に交通安全や事故等の未然防止の指導を徹底し、自分の身は自分で守る意識を高める取組を推進していく。

取組状況

○交通安全指導

小学校～入学前、学校説明会で通学路地図を保護者に手渡し、実際に保護者と歩くことを推奨。新学期に合わせ交通安全教室実施。入学後、教職員による登下校指導や自転車の実地指導実施。

中学校～新学期に合わせ交通安全教室実施。自転車通学を認めている学校ではパンフレット等作成し指導を重ね、安全意識啓発。

○ネットパトロールによる取組

・道教委委託事業者からの情報提供に基づき、その状況に応じて全体あるいは当事者に指導し、保護者に協力を求めるもの。

○通学路の安全

・危険箇所の把握と改善～各校から通学路危険箇所の報告を受け、通学路安全推進協議会を開催し、合同点検箇所の結果の共有や危険箇所に対する対策メニューを決定し、一部の危険箇所について対策を実施した。

【協議会参加者】北海道開発局室蘭開発建設部・胆振総合振興局室蘭建設管理部・室蘭警察署交通課
登別市都市整備部・市民生活部・登別市教育委員会学校教育グループ

・通学路安全プログラムに基づく危険箇所は 38 箇所であり、市公式ウェブサイトや各校通学路安全マップ等で周知を図っている。

・地域や保護者の協力を得た見守り活動～町内会等地域ボランティアによる見守り活動のほか、保険会社や郵便局など、市が協定を結ぶ企業と情報共有をして進めた。

○防犯教室

幌別小	4月（4/24～5/2）　安全指導週間(不審者対応等　室蘭警察署よりビデオ借用、各学級で視聴と指導) 11/21　薬物乱用防止教室（5・6年　講師：室蘭警察署向井様）　犯罪の現状について講話を受け、トラブルに巻き込まれないために気を付けるべきことについて理解を深めることができた。
幌西小	7/18 不審者対応訓練（全学年）　講師：室蘭警察署生活安全係
鷲別小	7/11　不審者等対策避難訓練　講師：室蘭警察署員　対象：全学年
登別小	6/11　不審者対応訓練（全学年）・・・（隔年実施予定） 10/28 スマホ安全教室(全学年)
富岸小	5/8　交通安全教室（低学年） 5/9　交通安全教室（高学年） 7/1　スタディちゃんの家駆け込み訓練　3年

若草小	4/18　交通安全教室（1・2年）　　4/30　交通安全教室（4・6年）　　5/2　交通安全教室（3・5年）
青葉小	5/21　防犯教室（４・６年生）講師：室蘭警察署員 7/9　防犯教室（３・５年生）講師：室蘭警察署員
幌別中	7/18　1年生非行防止教室　講師：NTTドットコム 3年生非行防止教室　講師：札幌法務局 7/23　2年生非行防止教室　講師：室蘭警察署 11/27　2年生冬休み前啓発集会（薬物乱用防止教室）　講師：室蘭警察署員 12/19　3年生冬休み前啓発集会　講師：人権擁護委員 12/23　1年生冬休み前啓発集会　講師：室蘭警察署員
鷲別中	7/18　携帯安全教室(ＮＴＴスマホ教室) 3/6　3年薬物乱用防止教室(室蘭警察署)
登別中	4/10　携帯スマホ安全教室(講師：KDDI社員)　　4/21　非行防止教室(講師：室蘭警察署) 10/28　3年薬物乱用防止教室(講師：保護司会)
西陵中	11/25 薬物乱用防止教室(3年)
緑陽中	4/9 自転車点検・交通安全教室 11月　薬物乱用防止授業

○避難訓練

学校名	取　組　内　容
幌別小	避難訓練(地震・火災)　5/26 教室から避難　7/1 休み時間の避難 集団下校訓練　学期１回　校外班ごとによる下校訓練 避難訓練(津波) 9/19 幌別中グラウンドへ避難
幌西小	5/20　火災想定避難訓練 9/6　津波避難訓練
鷲別小	5/20　火災避難訓練　講師：消防署職員 9/5　一日防災学校津波避難訓練(全校児童による垂直避難経路確認) 北海道シェイクアウト　胆振防災教育デー 10/24　引き渡し訓練
登別小	4/18　火災避難訓練 7/4　立ち止まり訓練（中休み） 9/10　地震・津波・大雨洪水避難訓練(高台避難想定) 12/3　立ち止まり訓練（中休み） 1/22　身支度訓練
富岸小	5/2　地震･火災時の避難訓練 7/7　休み時間を想定した地震･火災時の避難訓練 9/1　シェイクアウト訓練 9/16 地域連携避難訓練(津波避難)亀田公園まで避難、富岸町内会による避難誘導協力 10/16 引き渡し訓練
若草小	5/9　火災避難訓練　　6/20　不審者対策訓練　6/30　スタディちゃんの家避難訓練（3年） 7/4　引き渡し訓練　　8/28　シェイクアウト訓練　9/5　地震津波避難訓練 1/22　シェイクアウト訓練
青葉小	5/2　引き渡し訓練 5/13　避難訓練（火災想定）

	9/3　避難訓練(地震・津波想定)
幌別中	6/5　火災想定避難訓練を実施 9/2　1年生防災学習　災害と避難　消防署 9/4　3年生防災学習　避難所体験　市防災課 9/11 2年生防災学習　救急救命　　消防署
鷲別中	6/20　避難訓練(火災) 9/4　避難訓練(津波)高台（室蘭自動車学校方面）の避難場所への移動
登別中	4/23　火災を想定した避難訓練　9/4 地震津波を想定した高台避難訓練
西陵中	4/21 火災を想定した避難訓練 9/5 防災学習　9/6 胆振防災教育デー
緑陽中	5/1　火災避難訓練　　9/3　津波避難訓練

評 価	防犯教室は、近年の不審者通報や実際の被害の増加の傾向を踏まえ、各学校が警察署等の協力を得て、身を守るための具体策を講話や訓練によって学ぶ機会とすることができた。 通学路の安全については、通学路安全推進協議会を開催し、報告された危険箇所の情報を関係部署に提供した。 避難訓練や一日防災教室のほか、災害等が発生した場合、児童生徒が自ら適切に対応できるよう、平時からフェーズフリーの視点を生かした教育活動を実施した。
今後の方向性	児童生徒の安全確保については、各学校が策定している危機管理マニュアルを随時見直し、教職員や児童生徒が災害時に冷静に対応できるようにするとともに、児童生徒への交通安全指導の徹底、フェーズフリーの視点を意識した防災教育をさらに推進し、事故等の未然防止に努める。 また、夏季の学校施設において、児童生徒が安全・安心に、学習に集中できる環境を整備するため、空調設備を小学校校舎から順次導入していく。

項 目	９　学校の適正配置
点 検 内 容	令和７年度に、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」の見直しを行うとともに、児童生徒数の減少が加速しているなかでも、登別市の子どもたちのより良い教育環境を確保していくため、適正配置の取組を進めて行く。 令和７年４月の幌別小学校と幌別東小学校の統合については、児童が安心して楽しく学校生活を送ることができるよう、学校と連携し、きめ細やかな対応を進めていく。 令和９年４月に統合する幌別中学校と登別中学校については、両校の教職員による「統合準備委員会」と市教育委員会が連携して、統合後の環境整備や統合にあたって生じる課題への対応方法などについて協議を続けていく。

取組状況

「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」（以下「グランドデザイン」という。）を策定した際に実施した児童生徒数の将来推計が実際と乖離してきたことから、改めて推計し、令和８年１月にグランドデザインを一部改訂した。

令和７年４月の幌別東小学校と幌別小学校の統合については、学校での様子について教職員が注意深く見守りを続けるとともに、学校運営協議会の委員に旧幌別東小学校区の住民等も就任し、意見交換等を行うことで、学校と地域が一体となって見守りを続けた。

また、令和９年４月の幌別中学校と登別中学校の統合に向けて、両校間における統合準備委員会の会議が行われたほか、市教育委員会と両校の管理職等との協議を随時実施し、統合の準備を進めた。

【学校の適正配置に関する協議等（令和７年度）】

（登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～一部改訂）

令和８年１月 22 日　　令和７年度第 10 回定例教育委員会で可決（議案第 14 号）
令和８年３月 18 日　　市民説明会（市民会館）
令和８年３月 23 日　　市民説明会（鷲別コミュニティセンター）
令和８年３月 24 日　　市民説明会（観光交流センター・ヌプル）

（幌別東小学校と幌別小学校の統合に関する学校と地域の一体となった見守り）

学校運営協議会で旧幌別東小学校区の児童について協議した回数　２回／３回
その他、学校での様子について教職員による見守りを実施

（登別中学校と幌別中学校の統合に向けた各種会議）

統合に向けて両校の教職員による全体会議のほか管理職会議、事務局会議等を複数回開催

評　価	令和３年８月に公表した「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」に沿って登別中学校と幌別中学校の統合に向けた両校の協議を進めるとともに、令和７年４月に統合した旧幌別東小学校区から通学する児童について学校と地域が一体となって見守りを行った。また、令和８年１月にグランドデザインの一部改訂し、第２期以降の取組の体制を整えた。
今後の 方向性	令和９年度統合に向けた幌別中学校と登別中学校の両校の生徒間交流事業の実施等を支援するとともに、「登別中学校閉校記念式典」に向けた準備を進めていく。 令和７年度に「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」について見直しを行ったことから、新たな適正配置の考え方を広く周知するとともに、児童生徒数が望ましい学校規模・学級規模をすでに下回っている、鷲別小学校と西陵中学校の各校区に「地区別検討委員会」を設置し、保護者や地域の方々と協議を開始するなど、子どもたちのより良い教育環境の確保に向けて取り組んでいく。

項 目	10　社会教育
点 検 内 容	市民一人ひとりが、自分らしさを発揮することができる生涯学習社会の実現に向けて、引き続き、各種施策の推進を図っていく。

取組状況

○「第６次登別市社会教育中期計画」に基づいた主な施策

・人づくり①青少年世代～これからのまちづくりを担う青少年の健全育成と地域教育力の向上

地域学校協働本部事業	各中学校区	コーディネーターを配置し体験活動を実施
少年の主張大会	緑陽中	6/2　登別ライオンズクラブ・登別中央ライオンズクラブとの共催により、中学生が日常生活での体験や日ごろ考えていること等について発表を行う少年の主張大会を開催した。
放課後子ども教室	鷲別小	放課後に子どもが安全・安心に活動できる居場所づくり ひなわしメート　132名登録 ※はまなすメートは東小の統合に伴い、令和６年度末をもって休止
二十歳のつどい	市民会館	1/11　市と実行委員による企画、運営　出席者 304/474名

・人づくり②成人世代～学習意欲の向上の奨励と地域活動の担い手の発掘・育成

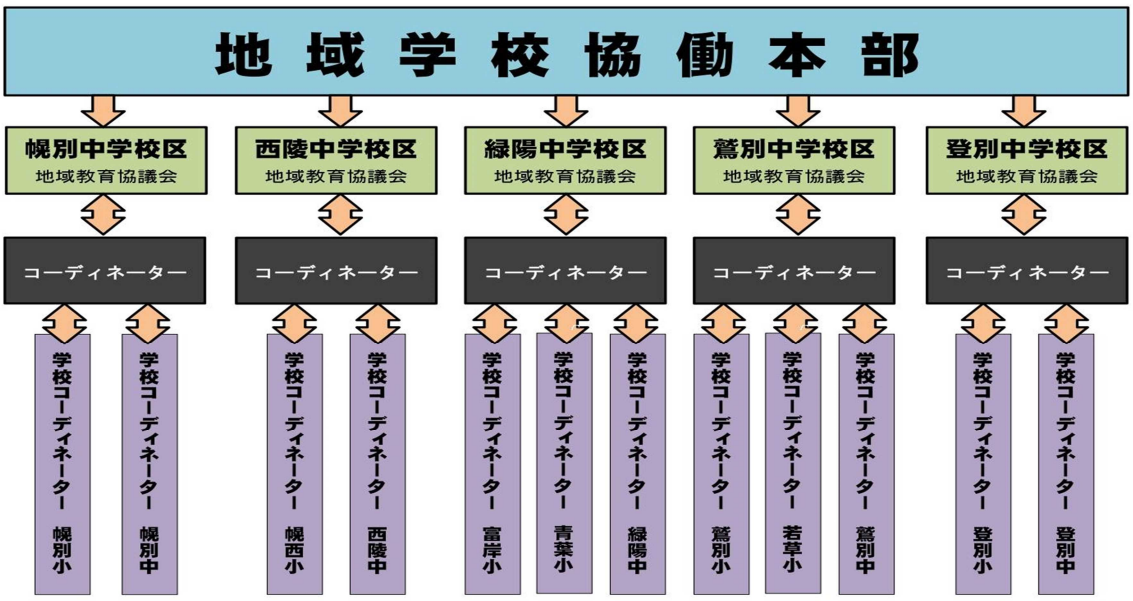
ＰＴＡ連合会助成金	会員数 3,253名	市内の小中学校及び高等学校等のＰＴＡで構成され、研究大会等を実施する登別市ＰＴＡ連合会を支援。

・人づくり③高齢者世代～学習機会の充実と地域の模範となる高齢者の活躍による地域教育力の向上

登別ときめき大学	88名登録	事務局主催の基礎コースと各団体の講座を連携コースとした生涯学習事業。基礎コース8講座

・学習環境の整備～学びの循環と市民の学習の場の確保

家庭教育学級	63名参加	子育てに関する様々なことを学ぶ学習会事業。4回実施。



○「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」への発展について

・これまで「学校支援地域本部」として推進してきた体制を基盤とし、令和元年度より「地域学校協働本部」へと移行し、「学校コーディネーター」を各学校に１名配置することを目指し、段階的に体制整備

を進める。

○「第７次登別市社会教育中期計画」の策定

誰もが生涯を通じて意欲的に楽しく生きがいを持って学び続けられる生涯学習社会の実現と、地域や社会全体のウェルビーイングが促進される各種取組を推進するため、令和８年度を初年度とする「第７次登別市社会教育中期計画」を策定した。

評　価	市民一人ひとりが生きがいを持って自分らしさを追い求めることができる生涯学習社会の実現に向け、人づくりという観点から各世代に応じた事業を展開することができた。 ５つの中学校区に配置されているコーディネーターを中心に、学校コーディネーターの配置など体制の強化に努めた。 また、ライフスタイルの変化やコロナ禍など、社会を取り巻く環境の変化を踏まえながら、今後の社会教育行政の役割や施策の方向性を示す指針として、令和８年度を初年度とする「第７次登別市社会教育中期計画」を策定した。
今後の方向性	市民一人ひとりが、自分らしさを発揮することができる生涯学習社会の実現に向けて、第７次登別市社会教育中期計画に基づき、各種施策の推進を図っていく。

項　目	**11　文化・スポーツの振興**
点検内容	文化・スポーツを取り巻く環境が大きく変化している中、令和７年３月に策定した「第３次登別市文化振興基本計画」及び「第３次登別市スポーツ推進基本計画」に基づき、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団、登別市文化協会、登別市スポーツ協会などの関係団体と適切な役割分担のもと、連携・協力して文化・スポーツの振興の取組を続けていく。 また、中学生の新たな活動の場として令和５年度より運営を開始した「登別市地域クラブ」については、サッカー、野球、合唱など、６種のチームが中学校の垣根をこえて活動を進めているが、引き続き運営主体である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団を支援し、令和７年度は、平日も含めた地域展開に向けて、活動チームや活動内容の拡充を進め、中学生にとって望ましい文化・スポーツの環境づくりに取り組んでいく。 スポーツ活動の基盤となるスポーツ施設については、市民プールにおける空調設備や、岡志別の森運動公園におけるテニスコートのナイター照明を更新するなど、環境整備についても継続していく。

取組状況

○西いぶり定住自立圏文化事業

劇団四季ミュージカル「赤毛のアン」

5/26 来場者926名　主管：伊達市

○小学校での文化芸術体験～舞台芸術等総合支援事業（学校巡回公演）～

文化庁実施事業の活用。市内小学校６年生を対象に実施。

演目　出前芝居『くず～い屑屋でござい』－古典落語「井戸の茶碗」より－

公演団体　一般社団法人劇団前進座

ワークショップ6/17　代表校の幌別小学校で開催（演劇的発声や立ち回りの所作等の説明）
公演　　9/12　総合体育館で開催　幌別小児童が出演

○学校での郷土芸能の伝承
幌別小学校～幌別駒踊り　※幌別東小学校閉校後、初めての実施
8/29　駒踊りについての座学、練習①（教室）
9/3　駒踊り練習②（教室）
10/2　駒踊り練習③（体育館）
10/14　駒踊り練習④（体育館）
10/18　学習発表会（体育館）
※令和8年度は総合的な学習の時間で3年生が体験予定

登別中学校～熊舞　7/22　熊舞ヌプル公演
8/30　地獄まつり（登別温泉）
1/21　熊舞引継式（登別中学校）

○地域クラブ活動推進事業
市立中学校の生徒が継続してスポーツ・文化活動に親しむことができるよう、新たな地域クラブの運営を推進するための支援等を実施
【主な支援内容】
・総括コーディネーターや文化・スポーツ推進コーディネーター（地域おこし協力隊）を配置し、地域クラブの運営支援
・地域クラブ活動への移行に係る中学校等との調整
・登別市地域クラブの運営等に要する経費に対する補助
・会員の平日の移動手段確保のための巡回バスの運行
【登別市地域クラブ活動概要（令和7年度）】
・活動種目　９チーム　～　平日・休日ともに活動　サッカー、野球、男女バレーボール
ソフトテニス、卓球、
男女バスケットボール
平日のみ活動　合唱
・会員数　256名（令和8年3月31日時点）
・指導者数　38名
・活動日数　合計1,158日（平日：868日（うち、長期休業中83日）、休日：290日）

○一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が実施する文化・スポーツ事業への補助
【文化振興事業】
（１）主催事業

初心者英会話教室	6/9-26、10/6-26　13名	一般の方を対象に市民会館にて実施
筆ペン習字教室	9/3,10,17,24、10/1,8　7名	一般の方を対象に市民会館にて実施
かぎ編み教室	12/13　8名	一般の方を対象に市民会館にて実施
燻製作り体験	1/26、2/19　6名	一般の方を対象に市民会館にて実施
スイーツデコ教室	1/18,25　8名	小学生を対象に市民会館にて実施
楽しい工作教室	8/2　4名	小学生を対象に日本工学院にて実施
美味しいコーヒーの	11/11　14名	一般の方を対象に市民会館にて実施

淹れ方教室		
親子木育教室	10/12　23名	親子を対象に市民会館にて実施
道新ジュニアクラシック「登別市小・中学生のための札響コンサート」	6/3　654名	登別小、幌別小、青葉小、若草小、幌別中、西陵中、登別明日中等教育学校前期を対象に市民会館にて札響コンサートを開催
ケロポンズコンサート	1/9　379名	一般の方を対象に市民会館にて実施
親子でジャズコンサート＆ワークショップ	7/12　91名	一般の方を対象に市民会館にて実施
一龍齋貞鏡　独演会	11/9　155名	一般の方を対象に市民会館にて実施

（２）共催事業

市民文化祭	8/26～11/26	各地区において実施
文化講演会（映画　冬へのパッサカリア）	1/18　155名	一般の方を対象に市民会館にて講演会を実施
小中学生書初展	2/6-8　264名	市民会館にて小・中学生の書き初めの展示

【スポーツ振興事業】

（１）主催事業

温泉散策ウォーキング	5/17 10名	登別温泉にて一般の方を対象に実施
ファミリーフィッシング	6/15　8名	室蘭港にて親子を対象に実施
走り方教室	2/21　31名	総合体育館にて小学生～中学生を対象に実施
キッズHIPHOP教室	1/18,25　8名	市民プールにて幼児を対象に実施
ダンスレッスン派遣事業	1/26、2/19　137名	令和７年度は幌別中と緑陽中に派遣
ニュースポーツ（室内雪合戦）	3/14　32名	日本工学院にて一般の方を対象に開催
バスケットクリニック（トップアスリート）	3/22　38名	幌別中学校にて小学生を対象に実施
軽スポーツ指導者派遣事業	11/14　92名	市内各小学校にて小学生以上を対象に派遣
市民ソフトボール大会（夏）	6/29　119名	岡志別の森運動公園にて一般の方を対象に開催
市民ソフトボール大会（秋）	10/5　141名	岡志別の森運動公園にて一般の方を対象に開催
市民ボウリング大会（シニア）	12/17　18名	GIGO BOWL室蘭にて一般の方を対象に開催
市民ボウリング大会（一般）	2/18　21名	GIGO BOWL室蘭にて一般の方を対象に開催
市民モルック大会	6/28　86名、10/26　86名、3/22　46名	岡志別の森運動公園及び市民会館にて一般の方を対象に開催

（２）共催事業

市民ミニバレー大会	12/14　63名	総合体育館にて一般の方を対象に開催
市民健康フェスティバル	10/5　549名	岡志別の森運動公園、市民プールにて一般の方を対象に開催

（３）その他事業

放課後運動教室事業	通年	【実施小学校】市内7小学校 【実施回数】　56回 【参加者累計総数】3,379人 【実施内容】バドミントン、跳び箱、マット遊び 等

○その他の健康づくり、スポーツ振興事業

市民ラジオ体操会	7/26	登別小、幌別西小を会場に実施　参加人数105名
西胆振6市町小学生 スポーツ交流会	5/24	西胆振3市3町の小学生を対象としたスポーツ大会（陸上競技）を日鋼室蘭スポーツパークで実施 参加延べ人数　141名　うち、登別市民15名
学校体育施設開放事業	4月～3月	11施設(小7校、登中、緑中、幌中、西陵中を開放) 延べ開放日数2,739日 延べ利用団体1,800団体 延べ利用人数22,898名

○社会教育施設の主な改修等

市民プール　　排煙窓開閉機器取替修繕、可動床アクリルパネル取替修繕、ボイラー等改修工事

市民会館　　舞台吊物ワイヤ交換修繕、大ホール暖房ボイラー更新修繕、正面出入口庇防水シート修繕、火災報知設備感知器取替修繕、機械室スチールドア修繕

岡志別の森運動公園・川上球場

得点ボード修繕、テニスコートＬＥＤ照明改修工事

評　価	文化については、「第３次登別市文化振興基本計画」で目標に掲げる「市民一人ひとりの豊かな個性と人間性を育み、感性や創造性をかん養し、心豊かな生活を送ることができるよう、誰もが文化に親しむことのできる環境の充実」に向け各種事業を実施することができた。 また、スポーツについても、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が実施する市民健康フェスティバルや放課後運動教室、各種スポーツ振興事業等の実施により、地域の方々や子供たちに広くスポーツ活動の機会を提供することで健康増進や運動能力の向上を図ることができた。 そのほか、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団が運営する「登別市地域クラブ」において、９種のチーム活動を開始するとともに、ソフトテニス、卓球については、平日も含めた活動を開始し、中学校部活動から完全移行するなど、着実に地域展開を進めることができた。
今後の方向性	本市では中学校部活動の地域展開をいち早く進めているところであり、令和８年度には「陸上競技」と一部中学校での「バドミントン」について、登別市地域クラブでの活動を開始する予定。 引き続き、「登別市地域クラブ」の運営主体である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団を支援するとともに、中学生が希望するスポーツ・文化芸術活動に取り組むことができる環境を整えていく。 また、本市においては、現在、文化・スポーツの一体的な改革に取り組んでいるところであるが、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団、登別市文化協会、登別市スポーツ協会などの関係団体のさらなる連携・協力へとつながるよう、令和９年度の新庁舎への教育部移転に伴い、令和８年度中に市民会館を含めた各施設のあり方についても協議・検討し、持続可能な文化・スポーツの振興に向けた準備を進めていく。

項 目	12　歴史・文化の保存と活用
点 検 内 容	「のぼりべつ文化交流館」の廃止と「郷土資料館」の統合にあわせて郷土資料館のＬＥＤ化と展示のリニューアルを実施し、歴史を通した「ふるさと登別」の魅力発信に努める。 アイヌ文化の振興については、アイヌ民族の歴史や文化を学ぶ講座を開催するとともに、登別アイヌ協会やＮＰＯ法人知里森舎などが取り組む各種事業を支援し、引き続きアイヌ文化の普及啓発に取り組んでいく。

取組状況

○郷土の歴史や文化に関する各種講座開催の奨励

○郷土の歴史を明らかにする文化財の保存、管理

○アイヌ文化の伝承や普及・啓発～登別アイヌ協会や関係ＮＰＯ法人等の取組支援、登別アイヌ協会が実施する儀式の記録撮影のほか、ＮＰＯ法人知里森舎主催事業の周知等で支援を行った。

（公財）北海道アイヌ協会主催事業に係る経費の一部を補助した。

◇縄文出前講座　６～７月　市内小学校６校で実施（６年生265名参加）

◇アイヌ文化講座

（制作・体験）６・７月

登別アイヌ協会の会員等を講師にアイヌ民族の歴史や文化の講演やアイヌ文様の刺しゅうを施したファブリックパネル制作等、全４回の講座を実施。参加者延べ63名。

（講演）8/2　坂井美奈子氏(帝京大学)より「金成マツが筆録したアイヌ口承文学のなかのアイヌと和人」と題した講演。参加者35名。

◇歴史交流事業

◇郷土資料館特別展　※リニューアル作業のため未実施

◇郷土資料館企画展　１回開催

◇郷土資料館所蔵資料のデジタルアーカイブ化　※リニューアル作業のため未実施

◇体験学習事業

・郷土資料館事業　5/10 第２回郷土資料館まつり

・文化伝承館事業　ボランティアSLGによる、べこもちづくりなどの体験 7事業を実施　62名参加

・のぼりべつ文化交流館　4～9月の間に事業を実施　156名参加

◇博物館施設の廃止　等

・のぼりべつ文化交流館　老朽化等により9月末日をもって廃止。郷土資料館へ統合

・文化伝承館　郷土資料館と一体的に運営管理するため郷土資料館に統合し、令和7年度をもって廃止

◇各種講演等（学芸員派遣）　など

評　価	郷土資料館やのぼりべつ文化交流館等で、ふるさと教育の基となる文化財の保存、普及・活用の取組を進めるとともに、登別市の歩みを形づくる歴史資料を将来にわたって保存するとともに、まちの魅力をより伝えることができるよう、老朽化した「のぼりべつ文化交流館」を廃止して、収蔵資料の運搬等の作業を進め、「郷土資料館」へ統合した。併せて「郷土資料館」に隣接する「文化伝承館」も統合し、市の博物館を１施設にして一体的に管理し、内容の充実を図るとともに来館者が親しみやすくなるようリニューアルを行った。
今後の 方向性	郷土資料館が隣接する文化伝承館と統合し、令和８年４月１日よりリニューアルオープンすることから、全体が見渡せる明るい展示空間の中で、本市ならではの歴史や文化等の魅力をこれまで以上に発信していく。 アイヌ文化の振興については、新たに関連史跡の看板を設置するほか、アイヌ民族の歴史や

	文化を学ぶ講座を開催するとともに、登別アイヌ協会やＮＰＯ法人知里森舎などが取り組む各種事業を支援し、引き続きアイヌ文化の理解促進に取り組んでいく。

項 目	13　青少年の健全育成
点 検 内 容	青少年センターを中心に、学校・家庭・地域との連携のもと、街頭指導や巡回指導などを通じて青少年の非行防止に努めるとともに、不審者と遭遇した場合などを想定した「こども１１０番スタディちゃんの家」への駆け込み訓練を継続して実施し、登下校時における子どもたちの安全確保に努める。 また、子どもたちの健やかな成長を促し、豊かな人間性を育むため、家庭における教育力の向上を目的とした「家庭教育学級」を引き続き開設し、保護者が子育てに関する情報や基本的な生活習慣などを学び合う場を提供していくほか、放課後子ども教室及び地域学校協働本部事業において、地域ボランティアと協力しながら、子どもたちに豊かな学びの場を提供していく。

家庭教育の取組状況

○市が主体となって、保育所、幼稚園、小学校の保護者等を対象に１学級を開設し、交流を図りながら子育てに関する様々なことを学ぶことのできる学習会（講演会・体験講座等）を年に4回実施した。

第１回	6/30	家族が安心して暮らせる家庭洗濯のコツ★
第２回	8/24	親子で楽しく学ぶおこづかい講座
第３回	9/25	収納整理セミナー
第４回	11/24	考える力を育むアニメ制作講座

○「放課後子ども教室」～放課後に子どもたちが安全・安心に過ごすことができる活動拠点づくり
活動日時～平日2日間、4～9月午後5時まで　10～3月午後4時まで
運営～コーディネーターや教育活動サポーターなど地域の方々による実行委員会が主体。
鷲別地区放課後子ども教室「ひなわしメート」 計 88日間実施　計 4,733名
※幌別東小学校区放課後子ども教室「はまなすメート」は幌別東小学校の統合に伴い、令和６年度末をもって休止

○「地域学校協働本部事業」　参加者数　計 5,960名（大人・児童・生徒とも）
【鷲別中学校区（鷲別小・若草小・鷲別中）】

鷲別小学校	事業内容
4～5月	五月人形飾り　２回（飾付け、片付け）
5～3月	鬼っ子算数教室　10回
6～11月	畑・花壇整備　６回
9/22	世代間交流
2～3月	ひな人形飾り　２回（飾付け、片付け）
1/16	スキー授業
若草小学校	事業内容
9月	いもほり
5～3月	鬼っ子算数教室　９回
7/15	世代間交流

2/6	スキー授業
5/13、5/20	ふれあい農園土寄せ・授業中のふれあい農園
鷲別中学校	事業内容
4月・10月	登下校見守り　３回

【緑陽中学校区（富岸小・青葉小・緑陽中）】

富岸小学校	事業内容
4月	登下校見守り　３回
4月・9月	授業中のふれあい農園　２回
5月～11月	畑・花壇整備　４回
5～3月	鬼っ子算数教室　10回
7/8	世代間交流
1/25	冬祭り（３校合同）
11月	家庭科補助　３回
2月	スキー授業　２回
青葉小学校	事業内容
6～2月	鬼っ子算数教室　９回
10/29	世代間交流
1/23	漢字検定学習支援
1/25	冬祭り（３校合同）
1/30	スキー授業
緑陽中学校	事業内容
1/25	冬祭り（３校合同）
2/7	餅つき（３校合同）

【幌別中学校区（幌別小・幌別中）】

幌別小学校	事業内容
5～2月	鬼っ子算数教室　10回
6/7	ふれあい農園　田植え
6/25	世代間交流
10/4	乗馬体験（２校合同）
2/10	スキー授業
幌別中学校	
6/7	ふれあい農園　田植え
10/4	乗馬体験（２校合同）

【西陵中学校区（幌別西小・西陵中）】

幌別西小学校	事業内容
4～11月	畑おこし・花壇整備　６回
5～12月	鬼っ子算数教室　12回
7/3	世代間交流
7月	夏休み学習サポート　２回
9/6	地域との合同避難訓練

10/31	マンドリン鑑賞会
9月・11月	ふれあいスポーツレク
2/13	スキー授業
西陵中学校	事業内容
6/7	花壇整備

【登別中学校区（登別小・登別中）】

登別小学校	事業内容
4～3 月	鬼っ子算数教室　10 回
4/26	さけの放流
5 月・9 月	ふれあい農園　２回
5 月・6 月・11 月	畑・花壇整備　３回
6/26	地域教育協議会
10/28	世代間交流
1 月・2 月	スキー授業　５回
登別中学校	事業内容
4～3 月	花壇整備　32 回
6/26	地域教育協議会

青少年センターの取組状況

○登下校の見守り活動や街頭指導、巡回指導

・市内巡回パトロール（通常・特別）実施状況　※（　）内は昨年度実績

	通常巡回		特別巡回	合　計
	鷲別･緑陽 校区	登別･幌別･西陵･明日 校区	（列車添乗･祭典その他）	
延べ日数	211日(230日)	213日(230日)	18日 (38日)	442日(498日)
延べ巡回数	328回(448回)	327回(433回)	25回(51回)	680回(932回)
延べ人員	395人(625人)	400人(613人)	60人(153人)	855人(1,391人)
指導人数	17人(18人)	18人(4人)	0人(0人)	35人(22人)

※指導の内訳（その他には怠学を含む）

	自転車等			危険な行為			その他			合　計		
	R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7	R5	R6	R7
13歳未満	6	0	1	15	18	25	0	2	1	21	20	27
13歳	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
14歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
15歳	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
16歳	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
17歳	0	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
18歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
19歳	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	6	0	5	15	18	29	0	2	1	21	20	35

指導内容と推移(前年度比)

「危険な行為」道路で遊ぶ16件(+4件)、遊泳2件(+2件)、スケートボード3件(+1件)、

キックスケーター3件(+2件)、防波堤でのテトラポット遊び2件(+2件)、
道路に広がってふざけ合う0件(-3件)、車道への急な飛び出し3件(+2件)、
走っている車に近づいてくる0件(-1件)

・万引き状況　(調査を依頼し報告を受けたもの)　(単位：件数)

	小学生	中学生	高校生	小中高以外	合計
4年度	1	0	0	11	12
5年度	1	1	0	6	8
6年度	1	0	0	11	12
7年度	1	0	3	20	24

※市内大型店 2 店舗、市内コンビニ 18 店舗、その他 20 店舗、計 40 店舗の協力による。

・不審者・変質者出没状況　(単位：件数)

	温泉地区	登別地区	幌別地区	鷲別地区	その他	合計
4年度	0	1	6	11	0	18
5年度	1	6	1	5	0	13
6年度	0	2	4	14	0	20
7年度	0	0	2	3	0	5

○こども110番の家　地域住民・商店の協力による子どもの駆け込み場所　374件

○情報の共有

・登別市青少年指導委員連絡会～学校教員と一般の指導員による交流、状況や指導の重点を確認。

・登別市小学校・中学校合同生徒指導担当者連絡会議～小学校・中学校他代表教諭による現状や課題などについての情報交流、協議、問題行動の早期発見や未然防止を図る。

・不審者出没状況調書、巡回パトロール活動及び街頭指導等状況調書による情報発信。

評 価	家庭教育学級では、学習会の開催を通して、家庭の教育力の向上を図る場を提供することができた。 放課後子ども教室、地域学校協働本部事業においては、地域ボランティアの協力のもと、子どもたちに豊かな学びの場を提供することができた。 巡回パトロールでは、突発的な事案発生に伴う特別巡回の実施など、状況に応じた対応を執ることができた。
今後の方向性	「生涯学習活動の促進・地域との連携による青少年の健全育成」における「生涯学習活動の促進」ついては、年齢・性別に関係なく、社会、文化、歴史などを幅広く学べる「登別ときめき大学」と、家庭における教育力の向上を目的とした「家庭教育学級」を引き続き開設して生涯学習活動の場を提供していく。 「地域との連携による青少年健全育成」については、地域学校協働本部を核として、学校・家庭・地域との連携のもと、各種体験活動を推進するとともに、青少年センターを中心に、青少年の非行防止を目的とした様々な啓発事業などのほか、不審者と遭遇した場合などを想定した「こども１１０番スタディちゃんの家」への駆け込み訓練を継続し、登下校時における子どもたちの安全確保に努める。

項 目	14　学校給食
点 検 内 容	学校給食については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食の提供に努める。 地元食材については、これまで飲用牛乳として提供していた「のぼりべつ牛乳」が、製造事業者の学校給食用牛乳用充填機が故障し、復旧の見通しが立たないこと等が原因で提供できない状況となったほか、地元産のだし昆布も海水温の上昇による影響等を受けて令和７年度から使用できないこととなったが、可能な限り近隣の食材を活用するように努める。 学校給食費については、令和７年度より値上げ改定することとしたが、国の交付金を活用することにより、保護者負担額については、令和７年度においても据え置き、引き続き子育て世帯に対する経済的支援を行っていく。 また、室蘭市と広域で設置し、令和 11 年度中の供用開始を予定している学校給食センターについては、令和７年度中に策定する基本計画を踏まえ、施設整備や運営方法の精査等、引き続き協議を進めていく。

取組状況

○地元の食材を取り入れた献立づくり

調理用の「のぼりべつ牛乳」を使用したシチューやカレー、スープをはじめ、登別産の豚肉を使用した豚丼や焼きそばなど、地元食材を活用した献立づくりに努めた。また、野菜については、入札規格等において近隣市町村産品または道産品を指定し、広域的な地産地消の取組を推進した。

このほか、４年ぶりに「登別閻魔やきそば」を提供したほか、前年度に引き続き「閻魔ラーメン」など、地元を身近に感じられる献立を提供した。さらに、アイヌ政策推進交付金を活用し、「チェプオハウ」や「カムオハウ」などのアイヌ料理を現代風にアレンジして提供するなど、地域の食文化への理解を深める機会の充実を図った。

○発達期にある児童・生徒に豊かでおいしい給食の提供

文部科学省が定める学校給食摂取基準等に基づき、栄養教諭が栄養バランスやエネルギー量に配慮した献立を作成し、発達期にある児童・生徒の健やかな成長を支える、安全で安心な給食を提供した。また、児童が望ましい食習慣を身につけ、健康な体づくりへの理解を深められるよう、学校教育グループと連携し、各小学校に栄養教諭を派遣して食育授業を年６回実施した。

○「和食」を伝えるための給食の実施

食育の日である毎月 19 日を中心に「和食の日」を設定し、主食・主菜・副菜・汁物を揃えた和食の基本的な献立を提供することで、和食の良さや食文化への理解を深める機会の充実に努めた。

【令和７年度「和食の日」の献立】

月	和食の日の献立
４月	ごはん、豚汁、イカ和風フライ、 ひじき大豆煮
５月	ごはん、豆腐とわかめの味噌汁、いわしの梅煮、うの花
６月	ごはん、せんべい汁、さばの味噌煮、 きんぴらごぼう
７月	ごはん、どさんこ汁、ぶりカツ、 きんぴらごぼう
８月	―

月	和食の日の献立
10 月	ごはん、けんちん汁、 あじメンチ、きんぴらごぼう
11 月	ごはん、いも団子汁、さばの味噌煮、 ひじき大豆煮
12 月	ごはん、もずく入り味噌汁、 あじフライ、きんぴらごぼう
１月	ごはん、豚汁、いわしのかば焼き、 ひじき大豆煮
２月	ごはん、さつま汁、さばのみぞれ煮、

				きんぴらごぼう
9月	ごはん、さつま汁、イカ和風フライ、 ひじき大豆煮		3月	ごはん、豚汁、いわしの三平煮、 ひじき大豆煮

※令和６年度から夏季休業の日数が増えたことから、８月に和食の日の献立は提供していない。

○食におけるアレルギー対応

①情報の共有

・学校や関係機関（医療機関や消防機関等）と、給食センターのアレルギー対応や各学校におけるアレルギーを有する児童・生徒の状況、緊急時の対応などの情報を共有し連携を図った。

・学校や保護者から連絡等があった場合は、一層きめ細やかな対応等に努めた。

②実際の対応～学校から教育委員会を経由し給食センターへ提出される「取組プラン」により対応。

牛乳アレルギー：小学校 11 名→緑茶に変更

中学校（北海道登別明日中等教育学校含む）７名→緑茶に変更

③給食センターからの情報発信

予定献立表（小中学校及び児童・生徒へ配布、給食センターウェブサイト、市ＳＮＳに掲載）

主食（パン・麺）や使用調味料の原材料及びアレルゲン一覧表（給食センターウェブサイトに掲載）

ランチメール（小中学校へ配布、給食センターウェブサイト、市ＳＮＳに掲載）

のぼりべつ食育タイムス（学校連絡アプリ「さくら連絡網」に掲載）

※食生活や栄養等に関する情報を保護者に周知するため、学校教育グループと連携し、令和７年度から新たに食育通信「のぼりべつ食育タイムス」を発行した。

評 価	献立に地元食材や近隣市町村産食材、道産食材を取り入れるとともに、その周知を図ることにより、児童・生徒が地域の食に対する関心を深め、郷土への愛着を育むことに寄与することができた。 また、各小学校への栄養教諭の派遣による食育授業が定着し、栄養に関する知識の習得に加え、望ましい食習慣や健康的な生活について学ぶ機会を提供することで、児童の健康の保持増進や望ましい食生活の実践に寄与することができた。 学校給食センターの広域設置については、令和７年度に策定した新学校給食センター整備基本計画において、施設整備費が当初より大幅に増額となったことから、今後の事業のあり方について室蘭市と協議を進めることとしている。
今後の方向性	学校給食については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食の提供に努める。 地元食材の活用については、登別産の豚肉は継続して使用しているものの、これまで調理用牛乳として提供していた「のぼりべつ牛乳」が、製造事業者の都合により令和８年３月をもって製造終了となったことから、地元食材の確保が困難な状況となっている。 このため、今後は可能な限り近隣地域の食材を活用し、広域的な地産地消の推進に努める。 学校給食費については、物価上昇の収束が見えないことや米飯価格が大幅に上昇する見通しであることなどから、令和８年度においても値上げ改定することとしたが、国の交付金等を活用して小学生は無償化、中学生は保護者負担額を据え置くなど、保護者に対する間接的な経済的支援を行っていく。 また、学校給食センターのあり方の今後の方向性については、安全で安心な給食を安定的に提供できるよう、室蘭市と粘り強く協議を続ける。

項 目	15　図書館
点 検 内 容	図書館については、「第４次登別市子ども読書活動推進計画」に基づき、保護者への読書啓発に関する事業を実施するほか、市民に気軽に足を運んでもらえるような講座やイベントなどの取組を工夫していく。 老朽化が著しい登別市立図書館施設の方向性については、現在、登別市立図書館整備検討委員会で移転を含め活発な議論を進めていただいているが、より多くの市民に親しまれる図書館を目指し、検討を続けていく。 加えて、将来の建替に備えて「新図書館建設基金」への原資積み立てを再開する。

取組状況

○令和７年度　図書館全体での貸出冊数 127,093 冊
　このうち移動図書館車での貸出冊数 12,940 冊、購入冊数 4,704 冊

○図書ボランティアとの連携・協働
・おはなしぽけっと
　おはなし会（11 回）
　特集展示『おすすめ絵本・秋～メンバーがおすすめする絵本～』(11/18～27)
・絵本を楽しむ会
　おはなし会(1 回)
　特集展示『大人も楽しめる絵本』(11/11～16)
　『大人も楽しめる絵本と紙芝居』(11/12)

○市民や関連機関との協働事業
展示「絵手紙を楽しむ会『夏の絵手紙と本のコラボ展』」(8/11～24、アーニス分館)
幼稚園・保育所の年長児の読書感想画展(10/9～24、市内幼稚園・保育所)
展示「『４回目』の油絵六人展～絵が好きになった人たち～」(11/5～9、市民提案)
展示「絵手紙を楽しむ会『佐藤栄子作品展』」　(1/10～20、市民提案、アーニス分館)
展示「生涯　筆をもつ」(1/20～29、市民提案)
講座「あなたの知らない たたらの世界」(2/21、市民提案)
アーニス分館「絵手紙を楽しむ会」(5～10 月)

○市役所各部局との連携事業
「登別市立小中学校教科書展」(学校教育グループ、6/1～24)
「世界アルツハイマー月間展」(健康長寿グループ、8/30～9/12)
「自殺予防展」(健康推進グループ、9/10～16)
「下水道と環境」(下水道グループ、9/17～30)
「論語展」(企画調整グループ、10/1～7)

○ブックスタート・ライブラリースタート事業や図書館講座などを通して、利用者の増加を図る。
・ブックスタート（４か月児を対象に、絵本２冊とアドバイス集などを配布。実施数 142 人）
・ライブラリースタート（３歳児と保護者を対象に図書館で本１冊を選び送付。実施数 52 人）

○主なイベント等の事業　（◇は「ふるさと学習」と関連）
4/26～5/25　「ケロケロ♪かえる大集合」、講演会「つるたあきさん　おはなし会」(5/24)
5/5　　こどもフェスタ 2025

6/27　「学校図書担当者・図書ボランティア連絡会議」
7/12～24　「道みんの日関連展示　『北海道弁だべさ』」
8/2　「夏休み工作」
8/16～19　「アーニス分館　夏休みのお楽しみ会　リターンズ」
8/30～9/12　「世界アルツハイマー月間」展示　共催：健康長寿グループ
10/9～24　幼稚園・保育所の年長児の読書感想画展
11/5～9　「『４回目』の油絵六人展～絵が好きになった人たち～」
11/11～16　展示「大人も楽しめる絵本と紙芝居」、読書会「大人も楽しめる絵本と紙芝居」(11/12)
11/18～27　「おはなしぽけっと『おすすめ絵本・秋～メンバーがおすすめする絵本～』」
11/29～12/25 展示「クリスマスの本」、「クリスマス工作」(12/6)
1/24　「小・中学生の読書感想文コンクール表彰式」
2/21　◇郷土文化講座「あなたの知らないたたらの世界」(室蘭登別たたらの会)
3/21～4/19　「本と雑誌のリサイクル市」

○毎月　「こども映画会」「名画鑑賞会」「えほんのへやのおはなし会」「デジタル分館のおはなし会」

○新規事業　①分館の閲覧用パソコンを更新し、利用者の利便性向上を図った。
②市民及び学生を対象に「登別市立図書館　今後のあり方に関するアンケート」を実施した。
③将来の図書館建替に向けた「新図書館建設基金」への原資積立を再開した。

評　価	市民等による企画提案事業を実施し、市民との連携・協働を進めることができた。 また、アーニス分館内の閲覧用パソコンを更新することにより、利用者の利便性が向上した。 図書館本館の老朽化については、登別市図書館協議会及び登別市立図書館整備検討委員会で検討を進めたが、賛否が分かれ、一定の方向性が示されなかったことから、各協議体から出された意見も踏まえながら、市民及び学生を対象としたアンケートのほか、市民団体との意見交換などを実施し、登別中央ショッピングセンターアーニスへの移転方針をまとめた。
今後の方向性	地域に根ざした図書館づくりについては、将来的な図書館の建替を目指し、新図書館建設基金への積立を継続していく。 現施設が抱える複数の課題が解決でき、図書館としての新たな価値を市民に提供することが見込めることなどを勘案し、登別中央ショッピングセンターアーニスへ移転することとした。現施設移転に向けた具体的な協議を深めることにより、多くの市民に親しまれる登別市らしい「図書館プラン」を作成し、令和10年度中の移転を目途として施設整備に向けた取組を進める。 「第４次登別市子ども読書活動推進計画」に基づき、ブックスタート・ライブラリースタート事業をはじめとした児童とその保護者を対象とする読書啓発事業を実施するとともに、図書館利用者の裾野を拡げるようなイベント等の取組を工夫していく。

３ 重点施策の評定結果

	項　　目	点　検　内　容	R6 評定	R7 評定
1	地域とともにある学校づくり	本市においては、学校運営協議会と地域学校協働本部の活動を軸として、学校・家庭・地域の連携・協働により子どもたちが自ら未来を切り拓くための「生きる力」を身に付けることができるよう、成長を支えていく。 地域と歩む持続可能な教育を実現させるために、各小中学校独自の発想や工夫を生かし、地学協働の取組を継続していく。 その中で「ふるさと登別」の豊かな自然や資源にふれる体験的な活動を通して、地域への愛着や誇りを醸成し、学びの中で実感した「ふるさと登別」の魅力を参観日や「教育ふれあいウィーク」など、あらゆる機会で家庭や地域に積極的に発信していく。 また、学校コーディネーターの選出に向けた取組を引き続き継続する。	A	A
2	確かな学力の定着	確かな学力の定着については、児童生徒一人一人が主体的に自己調整しながら学びを進められるよう、各学校において指導方法や指導体制を工夫し授業改善を推進していく。 算数・数学については、デジタル教科書やAIドリル等を効果的に活用し、個々に応じた学習レベルの問題に取り組んだり、反復演習をしたりするなど一人一人の学習状況を把握するとともに、子どもが自ら学ぶ学習を実施する。 英語教育については、デジタル教科書や外国語指導助手ALTを活用することで、普段の授業に加えて長期休業中の学校への派遣やイベントを開催する等により児童生徒が日常より英語に慣れ親しむことができる機会を設け、より英語への興味・関心を高め、観光に訪れる外国人に対して積極的にコミュニケーションを図る意識や英語力を身に付けることを目指す。 望ましい学習習慣の確立については、本市の児童生徒の意識調査から「授業はよくわかる」と８割以上が回答する一方で、家庭学習の時間が不足している現状が見受けられるため、日頃からタブレット端末を持ち帰り、自律的な家庭学習の定着に向けた取組を継続する。	B	B
3	豊かな人間性の育成	豊かな人間性の育成については、学校行事や学級活動、道徳の時間など、全ての教育活動を展開する中で、より良い人間関係を構築しながら、互いの違いを認め合い、個性を尊重する気持ちを育み、自己有用感を高めていく。 また、自然や温泉などの地域資源を生かした体験学習や、登別商工会議所や地元の企業、日本工学院北海道専門学校等と連携した職業体験などのキャリア教育を充実させ、学習成果を積極的に発信する「ふるさと学習」を推進するとともに、ふるさと登別を大切にする心の醸成に努める。 いじめ・不登校の対策については、いじめ問題・不登校の未然防止や早期発見・早期解決に向けた組織的な対応を継続するとともに、「みんなが通いたくなる学校づくり」を児童生徒一人一人が自分事として捉え推進できるよう、「鬼っ子フォーラム」の開催や「ピンクシャツデー」への参画を継続し、経験から得た学びや気付きを各学校へと広げることで、いじめ問題や多様性の理解への意識を高めていく。 また、「ＳＯＳの出し方に関する教育」を全学級で継続し、悩みを相談	A	A

		し合える人間関係づくりに努める。 　さらに、不登校児童生徒の対応については、教育支援センターでの個に応じた支援を続けるとともに、各学校で不登校傾向や集団に馴染めない児童生徒の学級以外での居場所づくりに努める。 　このほか、近年増加傾向にあるＳＮＳなどのトラブル対策については、児童生徒の情報活用能力を高める中で、望ましいインターネットの利活用に向けたルールづくりや危機管理意識の向上を図るなど、より一層、情報モラル教育の浸透に努める。		
4	健康・体力の向上	健康・体力の向上については、各学校の特徴を生かした体力向上の取組を推進するとともに、小学校の体育授業などへのスポーツ指導員の派遣を継続し、各学校の課題を焦点化した体育指導の改善や運動の習慣化を図り、体力向上に向けて組織的に取り組んでいく。 　また、規則正しい生活習慣を身に付ける取組として「早寝早起き朝ごはん」の徹底を家庭へ粘り強く啓発する中で、心身ともに健全な児童生徒の育成を図る。	B	B
5	教職員の人材育成	教職員の人材育成については、実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む教職員の育成に努める。 　ＩＣＴの効果的な活用については、市教育委員会デジタルフェローと連携し、引き続き指導力向上研修を開催するほか、新たに生成ＡＩの活用による校務改善を進める。 　また、各種会議や校内研修でのケース会議などを通じて、教職員の資質・能力である生徒指導力や組織的な対応力を高めていく。	A	A
6	幼保小中連携・小中一貫教育	幼保小中連携・小中一貫教育については、登別市幼保小中連携協議会をはじめとする各種会議を通じ、相互参観や教職員の連携強化を図り、子ども同士の交流を継続することで、スムーズな校種間の接続や子どもの不安解消に努める。 また、各中学校区で「目指す子ども像・１５歳の姿」を共有し、小中学校９年間を見通した学習指導や生徒指導の連携強化を図る。	A	A
7	特別支援教育	特別支援教育については、教育支援委員会による教育相談の実施や関係機関との連携を強化し、切れ目のない一貫した指導や支援体制を確立するとともに、各学校においては特別支援教育コーディネーターが中心となり、個別の教育支援計画や教育指導計画を作成し、複雑化、多様化する個々のニーズに応じた指導・支援を継続していく。	A	A
8	安全対策・安全指導	安全対策・安全指導については、防災教育の一環として、学校が実施する避難訓練や一日防災学校、フェーズフリーの考え方を意識した日常的な取組により、防災意識や危険予測意識が高まるよう、安全指導を繰り返し行っていく。 　危機管理マニュアルについては、いざというときに迅速かつ的確に対応できるよう、日頃から確認し状況に応じた改善を図っていく。 　また、日常的に交通安全や事故等の未然防止の指導を徹底し、自分の身は自分で守る意識を高める取組を推進していく。	A	A
9	学校の適正配置	令和７年度に、「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」の見直しを行うとともに、児童生徒数の減少が加速しているなかでも、登別市の子どもたちのより良い教育	A	A

		環境を確保していくため、適正配置の取組を進めて行く。 令和７年４月の幌別小学校と幌別東小学校の統合については、児童が安心して楽しく学校生活を送ることができるよう、学校と連携し、きめ細やかな対応を進めていく。 令和９年４月に統合する幌別中学校と登別中学校については、両校の教職員による「統合準備委員会」と市教育委員会が連携して、統合後の環境整備や統合にあたって生じる課題への対応方法などについて協議を続けていく。		
10	社会教育	市民一人ひとりが、自分らしさを発揮することができる生涯学習社会の実現に向けて、引き続き、各種施策の推進を図っていく。	A	A
11	文化・スポーツの振興	文化・スポーツを取り巻く環境が大きく変化している中、令和７年３月に策定した「第３次登別市文化振興基本計画」及び「第３次登別市スポーツ推進基本計画」に基づき、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団、登別市文化協会、登別市スポーツ協会などの関係団体と適切な役割分担のもと、連携・協力して文化・スポーツの振興の取組を続けていく。 また、中学生の新たな活動の場として令和５年度より運営を開始した「登別市地域クラブ」については、サッカー、野球、合唱など、６種のチームが中学校の垣根をこえて活動を進めているが、引き続き運営主体である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団を支援し、令和７年度は、平日も含めた地域展開に向けて、活動チームや活動内容の拡充を進め、中学生にとって望ましい文化・スポーツの環境づくりに取り組んでいく。 スポーツ活動の基盤となるスポーツ施設については、市民プールにおける空調設備や、岡志別の森運動公園におけるテニスコートのナイター照明を更新するなど、環境整備についても継続していく。	A	A
12	歴史・文化の保存と活用	「のぼりべつ文化交流館」の廃止と「郷土資料館」の統合にあわせて郷土資料館のＬＥＤ化と展示のリニューアルを実施し、歴史を通した「ふるさと登別」の魅力発信に努める。 アイヌ文化の振興については、アイヌ民族の歴史や文化を学ぶ講座を開催するとともに、登別アイヌ協会やＮＰＯ法人知里森舎などが取り組む各種事業を支援し、引き続きアイヌ文化の普及啓発に取り組んでいく。	A	A
13	青少年健全育成	青少年センターを中心に、学校・家庭・地域との連携のもと、街頭指導や巡回指導などを通じて青少年の非行防止に努めるとともに、不審者と遭遇した場合などを想定した「こども１１０番スタディちゃんの家」への駆け込み訓練を継続して実施し、登下校時における子どもたちの安全確保に努める。 また、子どもたちの健やかな成長を促し、豊かな人間性を育むため、家庭における教育力の向上を目的とした「家庭教育学級」を引き続き開設し、保護者が子育てに関する情報や基本的な生活習慣などを学び合う場を提供していくほか、放課後子ども教室及び地域学校協働本部事業において、地域ボランティアと協力しながら、子どもたちに豊かな学びの場を提供していく。	A	A
14	学校給食	学校給食については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食の提供に努める。 地元食材については、これまで飲用牛乳として提供していた「のぼりべつ牛乳」が製造事業者の学校給食用牛乳用充填機が故障し、復旧の見通し	A	A

		が立たないこと等が原因で提供できない状況となったほか、地元産のだし昆布も海水温の上昇による影響等を受けて令和７年度から使用できないこととなったが、可能な限り近隣の食材を活用するように努める。 学校給食費については、令和７年度より値上げ改定することとしたが、国の交付金を活用することにより、保護者負担額については、令和７年度においても据え置き、引き続き子育て世帯に対する経済的支援を行っていく。 また、室蘭市と広域で設置し、令和 11 年度中の供用開始を予定している学校給食センターについては、令和７年度中に策定する基本計画を踏まえ、施設整備や運営方法の精査等、引き続き協議を進めていく。		
15	図書館	図書館については、「第４次登別市子ども読書活動推進計画」に基づき、保護者への読書啓発に関する事業を実施するほか、市民に気軽に足を運んでもらえるような講座やイベントなどの取組を工夫していく。 老朽化が著しい登別市立図書館施設の方向性については、現在、登別市立図書館整備検討委員会で移転を含め活発な議論を進めていただいているが、より多くの市民に親しまれる図書館を目指し、検討を続けていく。 加えて、将来の建替に備えて「新図書館建設基金」への原資積み立てを再開する。	B	B

Ⅳ 点検・評価に関する学識経験者の意見等

○ 確かな学力の定着

毎年、算数の基本的な部分が低いと言われながら、その手当てはどうしているのかというのがなかなか見えてこない。算数・数学について、全国平均をかなり下回ったということだが、学校現場でも様子を見ると、算数の基礎・基本、極端にいうと足し算・引き算や、足し算の繰り上がり・引き算の繰り下がりを、４年生、５年生、６年生でも指を使って計算している子もいる。また、かけ算九九をしっかり覚えていないということで、中々計算ができていないとか、文章の読解力がなくて、何を問われている問題なのかがわからないとか、そういう部分の問題がかなり現場の中にあるように感じている。

基礎・基本というのは本来履修する学年で学習し終えたら、上の学年に進級したら、もう学習しない。その部分は学習したものとして押さえられているため。なので、極端にいうと、一斉に基礎学力の定着がどの程度あるのか、また、個々に、どの子がどういうレベルで、基礎的な学力が身についているのか、いないのか、きちんと把握する必要があるのではないか。

そのためには、市で一斉に、または各学校一斉に、例えば３年生以上で、九九や足し算・引き算の基本的な問題について調査をしてみるなど、個人的な学習定着状況を把握したり、各校の状況はどうなのかということを押さえながら、今後どのような取組をしていったら良いかということを考える必要があるのではないかと考える。

○　豊かな人間性の育成

いじめの話になると、必ず被害者と件数が出てくるが、これは加害と被害の児童生徒数は、件数と同一なのか、それとも加害者が少なくて被害者が多いのかが気になるところである。いじめの問題に関しては、加害者に対して、どういう動機があっていじめという行動に移ったのかということへの丁寧な聞き取りや指導・支援も必要と考える。加害児童生徒にとっては、あるいは家庭的な影響があったり、逆に自分が被害を受けたことによって反発して加害者になる、という可能性もあるので、いじめられた子の話を聞く・支援をするだけでなく、加害の児童生徒の状況、家庭の状況も含めてどうだったのか、動機は、心理的な状況は、など、そういうことにも対応していく必要があると考える。

いじめ認知のところが令和５年度から変わって増えてきていると思うが、令和６年度、令和７年度と、更に１５０件くらいのペースで増加してきている。子どもたちの数が増えていない中、こういう増加傾向というのは、いじめ自体が増えているのか、内容的に学校の聞き取り調査が増えた結果なのか、それとも社会、学校、児童生徒等が過剰になってきているのか、その辺りの状況が気になるところである。

○　教職員の人材育成

学校の中の対応だけでなく、学校外、特に保護者との対応について困っている教職員もいるのではないかと思う。例年、保護者への対応に苦労されて、やむを得ず退職をするというような状況になっている方もいると聞いている。

今、聞くところによると、学校では家庭訪問もほとんどないような状況なので、家庭の状況もわからない、保護者がどういう考え方で子どもを教育しようとしているのかもよくわからない。ということがあるのではないか。

学校の施設の中では、保護者と話をするかもしれないが、子どもがおかれている環境をしっかり見つめながら、保護者との距離をもっと縮めるような学校教育の運営ということも必要であり、そのことがまた、保護者との信頼関係の高まりにつながるし、それが、子どもとの信頼関係につながるという相乗効果につながるのではないかと考える。

生成ＡＩの活用によって校務改善を進めるというところについて、生成ＡＩ等による校務改善と業務の短縮化、勤務時間の縮減については因果関係があるのかどうか。

先生方にもっと豊かな心を持って欲しいという気持ちを常に持っている。先生方と子どもとの接し方について、仕事を優先する場合もあると思うが、子どもと接する、子どもと遊ぶ、一緒に過ごす、そういった時間帯を取っておくことが、子どもとの関係をより深くする。それを通して、教職員一人一人が子どもを理解する力を持つということが、教職員それぞれの人材育成に繋がっていくのではないか。事務的な仕事をスムーズに進めることが人材育成ではないと思う。子どもや保護者との触れ合い、人間関係をもっと深めていくことが、教職員の人材育成に繋がっていくのではないかと考える。その辺りについて、機会をみて、各学校にもお話いただきたい。

○　安全対策・安全指導

学校では子どもたちに自転車の乗り方や安全指導というのは徹底的にやっていると思うが、日常生活を見ていると、保護者が全然ルールが守られていないという状況もある。その姿を見ているのは子どもたちである。生活の中で、親が全然学校と違ったルールで勝手にやっている、という状況を子どもたちが見ると、子どもが学校で指導された内容より、親の姿を見て育つ。そういった傾向があるのかなと感じる。

なので、児童生徒だけを対象に安全対策・安全指導についてを啓蒙・指導するのではなく、家庭にも啓蒙する必要がある。大人がそういう状況を作ることによって、子どもに影響を与えていることをしっかり自覚しないといけないと思う。そういう手立てを市全体で行うことがこれからも必要になってくるのではないか。

Ⅴ 評価のまとめ

令和７年度の登別市教育委員会の重点施策として、点検・評価で取り上げた１５項目の評定結果は、

Ａ：達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	１２項目
Ｂ：おおむね達成しているもの・・・・・・・・・・・・・・・	３項目
Ｃ：おおむね達成しているものの一部課題があるもの・・・・	０項目
Ｄ：達成に向け困難な課題があるもの・・・・・・・・・・・	０項目

であり、教育行政執行方針に沿っておおむね適切な教育行政の執行がなされたと考えております。今後も、この点検・評価の効果を高めるために、各種基本計画の内容を再確認するとともに、目標に向かってより多くの具体的な改善策が提示されるようにしなければならないと考えております。また、ＰＤＣＡ（計画・実行・確認・改善）のマネジメントサイクルを生かしたシステムづくりに心がけ、登別市の教育行政の推進に役立ててまいります。

Ⅵ 参 考 資 料

１　令和7年度　教育行政執行方針

令和７年第１回登別市議会定例会にあたり、登別市教育委員会所管の行政執行に関する主要な方針について申し上げ、市民の皆様、そして、市議会議員の皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

はじめに令和７年度教育行政の執行にあたっての基本的な考え方について申し上げます。

現在、地球規模で進む気候変動や不安定な国際情勢など、日々変化する社会の中で、デジタル化やグローバル化が加速度的に進み、従来の知識や経験だけでは将来を見通すことが大変難しい時代を迎えております。
また、登別市においては、少子高齢化や人口減少といった課題も抱えている中、未来を担う子どもたちが豊かな人生を切り拓いていくためには、様々な変化に対応し、自ら学び、創造していく力、課題を解決していく力、他者と協働していく力、そして、多様な価値観を尊重する寛容な心を育んでいくことが強く求められています。

私たちは、予測できない未来に向けて「持続可能な社会の創り手」を育むため、登別市の将来を担うすべての子どもたち一人ひとりのよさを伸ばし可能性を引き出す教育の推進と学びの機会を保障する環境を充実させることにより、小笠原市長が表明した「こどもファースト」の理念のもと、令和の時代に即した教育行政を推進してまいります。

以下、令和７年度の重点項目について申し上げます。

はじめに『地域とともにある学校づくり』についてであります。
登別市の豊かな自然と歴史・文化の中で育つ子どもたちは「地域の宝」です。本市においては、学校運営協議会と地域学校協働本部の活動を軸として、学校・家庭・地域の連携・協働により子どもたちが自ら未来を切り拓くための「生きる力」を身に付けることができるよう、成長を支えてまいります。
令和７年度は、地域と歩む持続可能な教育を実現させるために、各小中学校独自の発想や工夫を生かし、地学協働の取組を継続してまいります。
その中で「ふるさと登別」の豊かな自然や資源にふれる体験的な活動を通して、地域への愛着や誇りを醸成し、学びの中で実感した「ふるさと登別」の魅力を参観日や「教育ふれあいウィーク」など、あらゆる機会で家庭や地域に積極的に発信してまいります。

次に【学校教育】についてであります。

知・徳・体のバランスのとれた子どもたちの育成を目指して、持続可能な特色ある教育活動を展開するために、総合的かつ計画的に教育施策に取り組んでまいります。

『確かな学力の定着』については、児童生徒一人ひとりが主体的に自己調整しながら学びを進められるよう、各学校において指導方法や指導体制を工夫し、授業改善を推進してまいります。
ＩＣＴの効果的な活用については、小学１年生から中学３年生までのすべての児童生

徒を対象にＡＩ対応の学習アプリを導入し、各教科の授業での活用はもとより、発達段階に応じて、毎日ＩＣＴ端末を持ち帰ることを基本に家庭学習を進めることで、反復学習による知識・技能の定着と思考力・判断力・表現力の育成を図ってまいります。
特に、本市の児童生徒の課題となっている「算数・数学」については、図形やグラフなどを視覚的・動的にわかりやすく捉えることができるよう、小学４年生以上を対象にデジタル教科書を導入することで、確実な学習内容の定着と学力向上を目指してまいります。
英語教育については、デジタル教科書や外国語指導助手ＡＬＴを活用することで、児童生徒が日常より英語に慣れ親しむことができる機会を設け、より英語への興味・関心を高め、観光に訪れる外国人に対して積極的にコミュニケーションを図る意識や英語力を身に付けることを目指してまいります。
望ましい学習習慣の確立については、本市の児童生徒の意識調査から「授業はよくわかる」と８割以上が回答する一方で、家庭学習の時間が不足している現状が見受けられるため、日頃からＩＣＴ端末を持ち帰り、自律的な家庭学習の定着に向けた取組を継続してまいります。

『豊かな人間性の育成』については、学校行事や学級活動、道徳の時間など、すべての教育活動を展開する中で、より良い人間関係を構築しながら、互いの違いを認め合い、個性を尊重する気持ちを育み、自己有用感を高めてまいります。
また、自然や温泉などの地域資源を生かした体験学習や、登別商工会議所や地元の企業、日本工学院北海道専門学校等と連携した職業体験などのキャリア教育を充実させ、学習成果を積極的に発信する「ふるさと学習」を推進するとともに、ふるさと登別を大切にする心の醸成に努めてまいります。
いじめ・不登校の対策については、いじめ問題・不登校の未然防止や早期発見・早期解決に向けた組織的な対応を継続するとともに、「みんなが通いたくなる学校づくり」を児童生徒一人ひとりが自分事として捉え推進できるよう、「鬼っ子フォーラム」の開催や「ピンクシャツデー」への参画を継続し、経験から得た学びや気付きを各学校へと広げることで、いじめ問題や多様性の理解への意識を高めてまいります。
また、「ＳＯＳの出し方に関する教育」を全学級で継続し、悩みを相談し合える人間関係づくりに努めてまいります。
さらに、不登校児童生徒の対応については、教育支援センターでの個に応じた支援を続けるとともに、各学校で不登校傾向や集団に馴染めない児童生徒の学級以外での居場所づくりに努めてまいります。
このほか、近年増加傾向にあるＳＮＳなどのトラブル対策については、児童生徒の情報活用能力を高める中で、望ましいインターネットの利活用に向けたルールづくりや危機管理意識の向上を図るなど、より一層、情報モラル教育の浸透に努めてまいります。

『健康・体力の向上』については、各学校の特徴を生かした体力向上の取組を推進するとともに、小学校の体育授業などへのスポーツ指導員の派遣を継続し、各学校の課題を焦点化した体育指導の改善や運動の習慣化を図り、体力向上に向けて組織的に取り組んでまいります。
また、規則正しい生活習慣を身に付ける取組として「早寝早起き朝ごはん」の徹底を家庭へ粘り強く啓発する中で、心身ともに健全な児童生徒の育成を図ってまいります。

『教職員の人材育成』については、実践的指導力や専門性の向上に主体的に取り組む

教職員の育成に努めてまいります。
　ＩＣＴの効果的な活用については、市教育委員会デジタルフェローと連携し、引き続き指導力向上研修を開催するほか、新たに生成ＡＩの活用による校務改善を進めてまいります。
　また、各種会議や校内研修でのケース会議などを通じて、教職員の資質・能力である生徒指導力や組織的な対応力を高めてまいります。

　『幼保小中連携・小中一貫教育』については、登別市幼保小中連携協議会をはじめとする各種会議を通じ、相互参観や教職員の連携強化を図り、子ども同士の交流を継続することで、スムーズな校種間の接続や子どもの不安解消に努めてまいります。
　また、各中学校区で「目指す子ども像・１５歳の姿」を共有し、小中学校９年間を見通した学習指導や生徒指導の連携強化を図ってまいります。

　『特別支援教育』については、教育支援委員会による教育相談の実施や関係機関との連携を強化し、切れ目のない一貫した指導や支援体制を確立するとともに、各学校においては特別支援教育コーディネーターが中心となり、個別の教育指導計画を作成し、複雑化、多様化する個々のニーズに応じた指導・支援を継続してまいります。

　『安全対策・安全指導』については、防災教育の一環として、学校が実施する避難訓練や一日防災学校、フェーズフリーの考え方を意識した日常的な取組により、防災意識や危険予測意識が高まるよう、安全指導を繰り返し行ってまいります。
　危機管理マニュアルについては、いざというときに迅速かつ的確に対応できるよう、日頃から確認し状況に応じた改善を図ってまいります。
　また、日常的に交通安全や事故等の未然防止の指導を徹底し、自分の身は自分で守る意識を高める取組を推進してまいります。

　『学校の適正配置』については、令和６年度末に「登別市学校適正配置基本方針」を改訂することとしており、これに基づき策定する「登別市小中学校の適正規模・適正配置の指針～将来における小中学校のグランドデザイン～」について、第１期（令和３年度から令和７年度）が終了することから、児童生徒数の減少が加速化していることなどを踏まえ、登別市の子どもたちのより良い教育環境を確保していくために、第２期に向けて見直し、着実に実行してまいります。
　令和７年４月の幌別小学校と幌別東小学校との統合については、児童が安心して楽しく学校生活を送ることができるように支援を続け、特に旧幌別東小学校区から通学する児童が疎外感や孤立感を抱くことのないよう、学校・地域が一体となって見守りを続けてまいります。
　令和９年４月に統合する幌別中学校と登別中学校については、令和７年度より新入学生徒の制服を統一することで統合への意識を高めるとともに、両校の教職員による「統合準備委員会」において、統合後の環境整備について協議を続けてまいります。

　次に【社会教育】についてであります。

　市民一人ひとりが、自分らしさを発揮することができる生涯学習社会の実現に向けて、各種施策の推進を図ってまいります。

『文化・スポーツの振興』については、文化・スポーツを取り巻く環境が大きく変化している中、令和７年３月に策定予定の「第３次登別市文化振興基本計画」及び「第３次登別市スポーツ推進基本計画」に基づき、一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団、登別市文化協会、登別市スポーツ協会などの関係団体と適切な役割分担のもと、連携・協力して文化・スポーツの振興の取組を続けてまいります。

また、中学生の新たな活動の場として令和５年度より運営を開始した「登別市地域クラブ」については、サッカー、野球、合唱など、６種のチームが中学校の垣根をこえて活動を進めておりますが、引き続き運営主体である一般財団法人登別市文化・スポーツ振興財団を支援し、令和７年度は、平日も含めた地域展開に向けて、活動チームや活動内容の拡充を進め、中学生にとって望ましい文化・スポーツの環境づくりに取り組んでまいります。

スポーツ活動の基盤となるスポーツ施設については、市民プールにおける空調設備や、岡志別の森運動公園におけるテニスコートのナイター照明を更新するなど、環境整備についても継続してまいります。

『歴史・文化の保存と活用』については、登別市の歩みを形づくる歴史資料を将来にわたって保存するとともに、まちの魅力をより伝えることができるよう、老朽化した「のぼりべつ文化交流館」を廃止し、「郷土資料館」へ統合します。

また、統合にあわせて郷土資料館のＬＥＤ化と展示のリニューアルを実施し、歴史を通した「ふるさと登別」の魅力発信に努めてまいります。

アイヌ文化の振興については、アイヌ民族の歴史や文化を学ぶ講座を開催するとともに、登別アイヌ協会やＮＰＯ法人知里森舎などが取り組む各種事業を支援し、引き続きアイヌ文化の普及啓発に取り組んでまいります。

『青少年健全育成』については、青少年センターを中心に、学校・家庭・地域との連携のもと、街頭指導や巡回指導などを通じて青少年の非行防止に努めるとともに、不審者と遭遇した場合などを想定した「こども１１０番スタディちゃんの家」への駆け込み訓練を継続して実施し、登下校時における子どもたちの安全確保に努めてまいります。

また、青少年問題協議会に、新たに地域の方々にも委員として参画していただき、健全な青少年育成に努めてまいります。

また、子どもたちの健やかな成長を促し、豊かな人間性を育むため、家庭における教育力の向上を目的とした「家庭教育学級」を引き続き開設し、保護者が子育てに関する情報や基本的な生活習慣などを学び合う場を提供してまいります。

これら登別市の社会教育行政を推進するため、令和７年度において、登別市生涯学習推進基本構想で目指す生涯学習社会の構築に向けた基本的・総合的な計画である「第７次登別市社会教育中期計画」の策定に取り組んでまいります。

『学校給食』については、引き続き衛生管理の徹底を図り、安全で安心な給食の提供に努めてまいります。

学校給食費については、令和７年度より値上げ改定することとしましたが、国の交付金を活用することにより、保護者負担額については、令和７年度においても据え置き、子育て世帯に対する経済的支援を行ってまいります。

また、室蘭市と広域で設置し、令和１１年度中の供用開始を予定している学校給食センターについては、令和７年度に基本計画を策定することから、施設整備や運営方法の

精査等、引き続き協議を進めてまいります。

『図書館』については、「第４次登別市子ども読書活動推進計画」に基づき、保護者への読書啓発に関する事業を実施するほか、市民に気軽に足を運んでもらえるような講座やイベントなどの取組を工夫してまいります。
老朽化が著しい図書館本館の施設については、現在、登別市立図書館整備検討委員会で移転を含め活発な議論を進めていただいておりますが、より多くの市民に親しまれる図書館を目指し、検討を続けてまいります。
加えて、将来の建替に備えて「新図書館建設基金」への原資積み立てを再開することといたしました。

以上、令和７年度の重点項目について申し上げました。

市教育委員会としましては、登別市の持続的な発展に向けて、学校教育・社会教育それぞれの役割を明確にして連携・協働を推進し、市民一人ひとりが幸せや生きがい、豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じて学校、地域、社会のウェルビーイングを向上させてまいります。
市民の皆様並びに市議会議員の皆様のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

教育に関する具体的な計画とその点検・評価の流れ

